

科目コード	5100030	単位	2	時間数	30		
授業科目名	法律を考えるA - 法学 -	開講学期等	前期	時間割	金3・4		
授業科目名英字	Jurisprudence A : Outline of Civil Law						
備考	授業の形式		講義	必修・選択	選択		
	受講対象学生		全学部 1・2年				
内容的に密接に関係する授業科目	日本国憲法 B・C		履修する際に前提とする授業科目				
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
西台 満	政策科学	3-328	018-889-2659				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	(火) 4:10~5:40		【場所】	西台研究室(3-328)		
授業の目的				授業の到達目標			
<p>先ず一般教育(General Education=本学では教養基礎と呼んでいる)の目的としては、生まれてから現在まで、親や学校の教師、本・新聞・テレビなどから沢山の知識・考えを受け取り、頭にkeepしているわけだが、大学に入ったのをいっきかけにして、それらを一旦全部 clear する。それから、自分が正しいと納得できるものだけを一つづつ、もう一回頭に収納してゆく。この作業を「自我の確立」と言う。</p>				<p>自我を確立するためには、これまで「当然」「当たり前」と思って全然疑わなかったことでも、改めて「本当だろうか?」と疑うこと、即ち批判力が必要になってくる。本講では主に民法を題材として、多くの人が正しいと思っていることについて、「実はそうではないんだ」という例を示す。</p>			
カリキュラム上の位置付け	最も「一般教育らしい」科目である。これを受けた人と受けない人とは、専門に入ってから大きな差が出てくると思われる。						
授業の概要と進行予定及び進め方	<p>【授業の概要】</p> <p>【進行予定と進め方】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 高校までの「勉強」と、大学でする「学問」との違い</li> <li>2 時代の流れ 工業化社会から情報化時代へ</li> <li>3 教育と価値観の変化</li> <li>4 権利の種類 公権と私権</li> <li>5 法源 成文法と不文法</li> <li>6 法律の解釈 反対解釈と類推解釈</li> <li>7 罪刑法定主義批判</li> <li>8 刑事訴訟 糾問主義と弾劾主義</li> <li>9 自由心証主義 証明の意味</li> <li>10 私的自治の原則</li> <li>11 不意打ちの禁止</li> <li>12 無効と取消</li> <li>13 消費者金融</li> <li>14 不動産の二重売買</li> <li>15 試験</li> </ol>						
授業に関連するキーワード	債務不履行		法律行為		登記		
	無効		不法行為		超過利息		
	証明						
成績評価の方法	7月中旬の一回の試験で。 但し、出席の良し悪しを成績に加味するため、出席を取る。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
	参	『理論民法』		西台満	高文堂出版社	平成17年	
教科書・参考書等に関する記述欄	参考書は、大学付属図書館の開架に約5冊ある。						
自由記述欄	質問を歓迎する。						

科目コード	5100041	単位	2	時間数	30		
授業科目名	日本国憲法 B - 自分の憲法観が持てるように -	開講学期等	前期	時間割	木5・6		
授業科目名英字	The Constitution of Japan B						
備考		授業の形式	講義	必修・選択	選択		
		受講対象学生	全学部 1～4年				
内容的に密接に関係する授業科目	法律を考えるA・B	履修する際に前提とする授業科目					
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
西台 満	政策科学	3-328	018-889-2659				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	(火) 4:10～5:40		【場所】	西台研究室(3-328)		
授業の目的				授業の到達目標			
<p>自分自身の憲法観を構築してもらうこと。学校で教科書を読んだり教師から聞いたり、テレビや新聞から得た知識は、どこまでも他人のものであって君のものではない。ひょっとしたら騙されているのかも知れない。そういうわけで、これまで皆さんの頭の中に詰め込まれてきた知識を一旦フォーマット(初期化=パソコン用語で、新しいデータを書き込むように、古いデータを全部消去すること)するような講義をするので、後は自分が正しいと思う考えを一つ一つ選択し、積み上げて行って欲しい。</p>				<p>(1) 憲法学界の多数説が中学・高校の教科書に取り入れられ、それが皆の頭に刷り込まれ、国民の常識のようになっていく。そういう憲法観のどこがおかしいのか? 主要な問題を取り上げて、批判する。 (2) たとえ常識みたいに思われていることであっても、自分が納得できないなら納得できるまでとことん考える、という思考力・批判力を鍛える。</p>			
カリキュラム上の位置付け	<p>マスコミや他人の考えに流されたりせず自分の考えで行動できる人、あるいは理科系なら発明・発見ができるような人、そういう人には批判的思考力が絶対必要である。本講は、憲法を題材にして、そういう能力を引き出そうとする。</p>						
授業の概要と進行予定及び進め方	<p>【授業の概要】</p> <p>【進行予定と進め方】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学問とは何か</li> <li>2. 憲法の名宛人</li> <li>3. 基本的人権と「法律の留保」</li> <li>4. 天皇制の意義と、国事行為に関する解釈</li> <li>5. 自由と平等の関係</li> <li>6. 「法の下での平等」の意義と法律制定の目的</li> <li>7. 選挙と「法の下での平等」</li> <li>8. 政教分離のあり方</li> <li>9. 三権分立</li> <li>10. 衆議院の解散</li> <li>11. 地方自治を殺す憲法解釈</li> </ol>						
授業に関連するキーワード	民主主義	法律の留保	地方自治				
	衆議院の解散	法治主義	官僚主権				
	信教の自由						
成績評価の方法	7月中旬の一回の試験で評価する。 但し、出席の良し悪しを成績に加味するために、毎回出席を取る。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
	参	『日本国憲法原論』		西台満	高文堂出版社	平成15年	
教科書・参考書等に関する記述欄	参考書は、大学付属図書館の開架に約5冊ある。						
自由記述欄	質問を歓迎する。						

科目コード	5100043	単位	2	時間数	30		
授業科目名	日本国憲法D - 自分の憲法観が持てるように -	開講学期等	前期	時間割	火3・4		
授業科目名英字	The Constitution of Japan D						
備考	授業の形式		講義	必修・選択	選択		
	受講対象学生		全学部 1～4年				
内容的に密接に係る授業科目	くらしと法 - 教養法学 - , 教養ゼミナール - 人権の現代的諸相 -		履修する際に前提とする授業科目	特になし			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
池村 好道	教育文化・地域科学	教文3-330	2661				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	月曜日 18:00～19:00		【場所】	教文3 - 3 3 0		
授業の目的				授業の到達目標			
統治機構を中心とした日本国憲法の基礎的理解				1) 憲法上の基本的な諸概念を説明できる。 2) 日本国憲法の基本構造を説明できる。 3) 各種の憲法問題の基礎を的確に把握できる。			
カリキュラム上の位置付け	本学の教育目標である「主体性と節度のある社会人となるための充実した教養教育」のための授業科目の一つ。本授業科目は統治機構に主眼がおかれており、「人権の現代的諸相」の履修と合わせて、憲法の一層の理解が可能となる。						
授業の概要と進行予定及び進め方	<p>【授業の概要】 憲法の理念と現実という問題を意識しながら、比較憲法的視点を加味して、統治機構を中心に日本国憲法の入門的解説を行う。</p> <p>【進行予定と進め方】 1～2回：国民主権と天皇制：天皇の地位、天皇の行為 3～4回：平和主義：9条の解釈 5～6回：国会：両院制、参議院の存在理由など 7～8回：内閣：議院内閣制など 9～10回：裁判所：司法権の観念と帰属など 11回：地方自治：「地方自治の本旨」など 12～14回：基本権：種類、享有主体など 15回：基本権：私人間効力 ・講義のなかで、憲法の条文をはじめ「六法」をしばしば参照する。 ・教育文化学部学校教育課程以外の学生については、受講者の人数制限を行うことがある。</p>						
授業に関連するキーワード	憲法	統治機構		象徴			
	戦争の放棄	衆議院の解散		司法権の独立			
	外国人の人権						
成績評価の方法	期末試験の結果（80％）及び学習態度（20％）による。総合60％以上を合格とする。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
教科書・参考書等に関する記述欄	教科書は使用しない。プリントを配付する。参考文献は適宜示す。最も小型のものでよいため、「六法」を留意すること。						
自由記述欄							

科目コード	5100050	単位	2	時間数	30		
授業科目名	くらしと法 - 教養法学 -	開講学期等	前期	時間割	金7・8		
授業科目名英字	Fundamentals of Law						
備考	授業の形式		講義	必修・選択	選択		
	受講対象学生		全学部1～4年				
内容的に密接に関係する授業科目	日本国憲法A・D, 教養ゼミナール - 人権の現代的諸相 -		履修する際に前提とする授業科目	特になし			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
池村 好道	教育文化・地域科学	教文3-330	2661				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	月曜日18:00～19:00		【場所】	教文3-330		
授業の目的				授業の到達目標			
現代法及びリーガル・マインドの基礎的理解				1) 現代法の基底にある法原理を説明できる。 2) 基礎的法概念を説明できる。 3) 新聞等により報道される法的事象につき、問題の所在を的確に把握できる。			
カリキュラム上の位置付け	本学の教育目標である「主体性と節度のある社会人となるための充実した教養教育」のための授業科目の一つ。法的素養を修得するための授業科目であると同時に、法を専門的に学ぶうえでの出発点としての科目でもある。						
授業の概要と進行予定及び進め方	【授業の概要】 ・具体的事例、裁判例を織り交ぜながら社会（行為）規範としての法を見る目を養ったうえで、現代法を支配している諸原理を明らかにする。 【進行予定と進め方】 ・進行予定は以下のとおり。 1～3回：法と道德の関係をめぐる諸説の検討 4～7回：法的制裁 （1）刑事上の制裁 （2）民事上の制裁 （3）行政上の制裁 8～10回：法の存在形式 （1）制定法（種類、諸原理、違憲立法審査） （2）非制定法（種類、役割） 11～12回：法の適用 （1）裁判過程 （2）裁判上の諸原理 13～15回：現代法の諸原理 （1）法治主義 （2）過失責任主義とその修正 ・講義のなかでしばしば「六法」を参照する。						
授業に関連するキーワード	刑罰	損害賠償	強制執行				
	正義	法的安定性	立証責任				
成績評価の方法	期末試験の結果（80％）及び学習態度（20％）による。総合60％以上を合格とする。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】		
教科書・参考書等に関する記述欄	教科書は使用しない。参考文献は適宜示す。 最も小型のものでよいため、事前に「六法」を用意しておくこと。						
自由記述欄							

科目コード	5100070	単位	2	時間数	30		
授業科目名	現代社会と経済 A - 経済学入門 -	開講学期等	前期	時間割	木3・4		
授業科目名英字	Modern World and Economy IA: Introduction to Economics						
備考	授業の形式		講義	必修・選択	選択		
	受講対象学生		全学部 1～4年				
内容的に密接に関係する授業科目	特になし		履修する際に前提とする授業科目	特になし			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
島澤諭	教育文化学部	教文3-326	2657				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	木曜 12:00-12:50		【場所】	教文3-326		
授業の目的				授業の到達目標			
日常の経済現象の背後にあるメカニズムを理解し説明できる。				経済学の基礎を身に付ける。 経済学を現実経済に応用できる。 経済現象を経済学的に説明できる。			
カリキュラム上の位置付け	経済学としての方法論についての講義を通じて、経済学的なものの見方を修得する。						
授業の概要と進行予定及び進め方	<p>【授業の概要】 この授業では、経済学の基礎(主にミクロ経済学)について学習し、日常生活で直面する様々な問題を分析します。毎回の授業は、まずNHKで放送された出社が楽しい経済学(DVD版)を用いて各テーマのイメージを持ってもらったあと、解説を行います。</p> <p>【進行予定と進め方】 第1回 インTRODクシヨソ 第2回 サソクコスト 第3回 機会費用 第4回 比較優位 第5回 イソセンテソブ 第6回 同上 第7回 モラルハザード 第8回 逆選折 第9回 価格差別 第10回 裁定 第11回 囚人のジレンマ 第12回 ゲーム理論 第13回 共有地の悲劇 第14回 割引現在価値 第15回 ネットワーク外部性</p>						
授業に関連するキーワード	ミクロ経済学		イソセンテソブ		情報の経済学		
	ゲーム理論		共有地の悲劇				
成績評価の方法	試験(80%)、学習態度(20%)により行う。総合60%を合格とする。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
	参考書	『スタバではグラソデを買え!』		吉本佳生	ダイヤモンド社	2007	
	参考書	『クルマは家電量販店で買え!』		吉本佳生	ダイヤモンド社	2008	
教科書・参考書等に関する記述欄	教科書は使用せず、プリントを配布する。 参考書籍等については、適宜授業の中で紹介する。						
自由記述欄							

科目コード	5100090		単位	2	時間数	30	
授業科目名	現代社会と経済 - 証券ビジネス論 -		開講学期等	前期	時間割	水7・8	
授業科目名英字	Modern World and Economy III:Global Securities Business & Financial Planning						
備考			授業の形式	講義	必修・選択	選択	
			受講対象学生	全学部 1～4年			
内容的に密接に関係する授業科目			履修する際に前提とする授業科目				
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
教育推進主管	教育推進総合センター	学生支援棟 1階事務室内	018-889-3193				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	質問や意見はメールで受け付けま		【場所】			
授業の目的				授業の到達目標			
戦後の日本を支えた仕組みが変わりいよいよ自己責任の時代がやってきたといえる。変化するということは悪いことばかりではない。自己責任の時代は知識を知っているかないかで結果が大きく変わってくる。今後日本人として考えておくべき問題と社会や経済の変化について学び、金融・保険・不動産等についてや企業を起こすときに、知っておくべきことを学ぶ。講義は現役の証券マンが担当する。実際のビジネスシーンや就職の面接では企業ではどんなことを考えているかや、その時々々のタイムリーな話題についても解説する。				就職までに身につけておいたほうが良いことや有能な社会人となるために必要なことを理解する。経済と金融についての知識、人生設計とライフプランニングの知識を身につける。債券、株式、投資信託について学び、年金の制度や確定拠出年金の基礎知識を学ぶ。			
カリキュラム上の位置付け	大学生生活を有意義に過ごすには、大学卒業後おきることをあらかじめ理解し予想し準備しておくことも重要だと思います。今の日本がおかれている状況を理解し、自己責任の時代を生きていくために必要な知識を身につけてほしいと思います。						
授業の概要と進行予定及び進め方	【授業の概要】 授業は講義形式を中心に進めます。毎回疑問点や感想を提出してもらい、それをもとに前回の復習からスタートします。海外の状況やその時々々の政治経済のトピックス的な話題にも触れる予定です。						
	【進行予定と進め方】 4月11日(水)「ガイダンス」 【講師】野村證券(株) 秋田支店 支店長 山岡 一俊 4月18日(水)「経済情報の捉え方」 【講師】野村證券(株) 秋田支店 法人課 佐藤 ゆかり 4月25日(水)「金融資本市場の役割とその変化」 【講師】野村證券(株) 秋田支店 支店長 山岡 一俊 5月2日(水)「株式市場の役割と投資の考え方」 【講師】野村證券(株) 秋田支店 ファイナンシャル・コンサルティング 課 深口 紀昭 5月9日(水)「債券市場の役割と投資の考え方」 【講師】野村證券(株) 秋田支店 ホートフォリオ・コンサルティング 部 アドバイザ 佐藤 貞助 5月16日(水)「投資信託の役割とその仕組み」 【講師】野村證券(株) 秋田支店 ファイナンシャル・コンサルティング 課 小笠原 有美 5月23日(水)「外国為替相場とその変動要因について」 【講師】野村證券(株) 金融公共公益法人部 課長代理 藤原 誠一 5月30日(水)「証券投資のリスク・リターン」 【講師】野村證券(株) 投資情報部 シニアファイナンシャルプランナー 阿部 利孝 6月6日(水)「ポートフォリオ・マネジメント」 【講師】野村證券(株) 投資情報部 シニアファイナンシャルプランナー 阿部 利孝 6月13日(水)「日本の株式市場史」 【講師】野村證券(株) 秋田支店 ファイナンシャル・コンサルティング 課 藤田 祐司 6月20日(水)「グローバル化する世界と資本市場の果たす役割」 【講師】野村ホールディングス(株) コーポレート・サービス・ソリュションズ推進室 SCO 池上 浩一 6月27日(水)「産業展望と投資の考え方」 【講師】野村證券(株) 秋田支店 支店長 山岡 一俊 7月4日(水)「企業とCSR」 【講師】野村ホールディングス(株) コーポレート・サービス・ソリュションズ推進室 アソシエイト 高澤 幸子 7月11日(水)「資本市場における投資家心理」 【講師】野村證券(株) 秋田支店 法人課 佐藤 ゆかり 7月18日(水)「資産運用とライフ・プランニング」 【講師】野村證券(株) 秋田支店 ファイナンシャル・アドバイザ-課長 横田 佳之 7月25日(水) 試験						
授業に関連するキーワード	ライフプランニング	ファイナンシャルプランニング			リスクとリターン		
	確定拠出年金	自己責任社会			グローバル化		
成績評価の方法	定期試験(70%)出席状況(30%)を中心に総合的に評価して60点以上を合格とする。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
	参考書	『証券投資の基礎』		野村証券投資情報部 編	丸善株式会社		
教科書・参考書等に関する記述欄							
自由記述欄							

科目コード	5100110			単位	2	時間数	
授業科目名	日本と諸外国の政治 A - 比較政治 -			開講学期等	前期	時間割	金3・4
授業科目名英字	comparative politics						
備考				授業の形式	講義	必修・選択	選択
				受講対象学生			
内容的に密接に関係する授業科目				履修する際に前提とする授業科目			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
中村裕	政策科学	3 - 332	2604				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	月曜日11時から12時		【場所】	3 - 332		
授業の目的				授業の到達目標			
現代の日本とロシアの政治の比較を通して、社会科学の領域としての政治学の基本を習得する				1. 冷戦から冷戦後の政治状況の変化を理解する。 2. 社会主義から資本主義への体制転換の意味を理解する。 3. マスメディア等の報道に対して自分なりの観点を持つ			
カリキュラム上の位置付け	社会科学の基礎						
授業の概要と進行予定及び進め方	1. 冷戦という時代。 2. 社会主義体制と資本主義体制。 3. 社会主義体制と福祉国家体制。 4. ソ連のペレストロイカ。 5. 福祉国家体制否定の自由主義原理の改革。 6. 脱社会主義のロシアの政治状況。 7. グローバル化、デフレ傾向、格差が問題化される日本の状況。						
授業に関連するキーワード	社会主義体制	ペレストロイカ		福祉国家体制			
	資本主義体制	新保守主義		体制転換			
	市場原理	リーダーシップ		格差			
成績評価の方法	試験						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
	参考書	『ソ連史』		松戸清裕	ちくま新書		
	参考書	『小泉政権』		内山融	中公新書		
教科書・参考書等に関する記述欄							
自由記述欄							

科目コード	5100130	単位	2	時間数	30		
授業科目名	大学生活と学習 - 大学教育・学習論 -	開講学期等	前期	時間割	火7・8		
授業科目名英字	Campus Life and Learning II:Teaching and Learning in University						
備考	授業の形式		講義・学生参加型	必修・選択	選択		
	受講対象学生		全学部 1～4年				
内容的に密接に関係する授業科目	履修する際に前提とする授業科目		(特になし)				
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
細川 和仁	教育推進総合センター	学生支援棟2F	018-889-3188				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	火曜9・10限	【場所】	学生支援棟2F教員室			
授業の目的			授業の到達目標				
大学における学習を有意義なものにするために、大学の教育・学習の特徴や最近の動向について学ぶ。			1) 大学の教育・学習に関する基礎的事項について説明できる。 2) 大学の教育・学習の課題について自分なりに問いを立て、論理的に述べることができる。 3) この授業を通じて得た知識・技能・経験に対して、自分なりに意味づけできる。 4) 大学の教育ポリシーに関して、他の受講者と建設的な意見交換ができる。 5) 自分の考えをまとめ、他の受講者にわかりやすく説明するための工夫ができる。また、他の受講者の説明を聞くことができる。 6) 自らの学歴意識や大学での学習に対する意識を、積極的に省察する。				
カリキュラム上の位置付け	学部・学科・学年によらず受講できる主題別科目です。						
授業の概要と進行予定及び進め方	【授業の概要】 この科目では、大学における教育・学習の特徴や最新の動向について教育学や学習論の観点から講義し、大学で学ぶことの意義について考えていきます。日本では大学進学率が急激に上昇してきました。そのことは、高等教育の拡大という点から見れば良いことですが、一方で大学の教育・学習の在り方に大きな影響を及ぼしています。社会の中で大学に求められる機能・役割や、高校とのつながり等の観点から、大学で学ぶことの意味について、あらためて考えてみましょう。 【進行予定と進め方】 取り上げるテーマとキーワードは次の通りです。 第1回～第2回 大学教育・学習論へのいざない ユニバーサル化する高等教育（大学進学率、大学「全入」時代、大衆化） 第3回～第5回 高校と大学のはざま 大学に進学する動機（学歴意識、不本意就学、満足度）、 大学の「学校化」と学生の「生徒化」（高校と大学、高校生と大学生、近代学校システム） 第6回～第8回 大学教育の3つのポリシー 大学の入学者受入れ方針（アドミッション・ポリシー）、学位授与方針（「学士力」、「社会人基礎力」、コンピテンシー） 第9回～第11回 カリキュラムの接続 大学のカリキュラム（教養教育、専門教育、単位制、高校との接続、CTC） 第12回～第14回 大学授業の設計と評価 大学の授業改善（授業評価、良い授業、悪い授業、FD、学習意欲）、 大学授業のデザイン（シラバス、成績評価、到達目標）、 学びの技法（読む・書く・調べる・聞く・話す） 第15回 大学における教育・学習の課題 大学改革の担い手（学習する環境づくり）、大学教育・学習の課題（レポート）						
授業に関連するキーワード	学習	大学教育	大学生				
	進学	カリキュラム	学習成果				
	FD						
成績評価の方法	成績評価は100点を満点とし、次の3つの課題に配点します。 (1) 小レポート(30点)(到達目標4,5) (2) 大レポート(40点).....授業内容に関連するテーマについてのレポート。(到達目標1,2) (3) リフレクション・ノート(30点).....各回の授業終了時に記入し提出する。(到達目標3,6)						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】		
	参考書	『大学生の学び・入門』	溝上慎一	有斐閣	2006		
	参考書	『大学教育学』	京都大学高等教育研究開発推進センター	培風館	2003		
	参考書	『教育の職業的意義 若者、学校、社会をつなぐ』	本田由紀	筑摩書房	2009		
	参考書	『大学の学び 教育内容と方法』	杉谷祐美子(編)	玉川大学出版会	2011		
	参考書	『街場の大学論』	内田樹	角川書店	2010		
教科書・参考書等に関する記述欄							
自由記述欄	各回の授業は、教員による講義と学生同士の意見交換を中心に進めます。自分の考えを持ち、それを他者に伝えること、また他者の考えを聴くことを重視します。積極的な参加を期待します。						

科目コード	5100140			単位	2	時間数	30
授業科目名	倫理リテラシー			開講学期等	前期	時間割	木3・4
授業科目名英字	Ethics Literacy						
備考				授業の形式		必修・選択	選択
				受講対象学生	全学部 1年生以上		
内容的に密接に関係する授業科目				履修する際に前提とする授業科目			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
銭谷 秋生	教育推進総合センター	2252	018-889-2252	石井 範子	医学系研究科	6515	018-884-6615
坪井 ひろみ	工学資源学研究科	2842	018-889-2842				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	銭谷：水曜3・4限		【場所】	学生支援棟2階教員室		
授業の目的				授業の到達目標			
現代社会の様々な領域において解決や決断を迫られている倫理的問題を抽出し、その由来、内容、解決策を考えるために押さえておくべき論点などを論じることで、現代社会が内包する倫理的問題の地図を提示する。				1) 「善き生」や「正義になかった社会」の諸原則を理解し、説明できる。 2) 今日の社会がどのような新たな倫理的問題を内包しているのかを説明できる。 3) それらの問題を考えるために押さえておくべき論点を整理できる。 4) そのような論点整理をしたうえで、想像力と分析力をもって、問題に関して自ら意見を述べることができる。			
カリキュラム上の位置付け	本学の教育目標1の「社会の変化に柔軟に対応できる幅広い教養」ならびに教養基礎教育の目標2の「現代の諸問題の認識」に関わる科目である。						
授業の概要と進行予定及び進め方	<p>【授業の概要】 例えば医療技術の進歩は、これまでの価値観の枠組みが予想していないような倫理的問題を課してくる。家畜に应用されているクローン産生技術を生み出すことにも応用していかといった問題、あるいは人工呼吸器をつけてやれば脳幹の機能は停止していても心臓は動き続ける患者を「死亡した」人間とみなしていかといった問題がこれに当たる。医療以外の場でも、このような新しい倫理的問題が姿を現している。この講義では、時代の進展とともに生じてきた新たな倫理的問題を取り上げ、論点を整理し、学生の皆さんが「よく」生きることを考えていく上での材料を提供したい。</p> <p>【進行予定と進め方】 1) 「善き生と道徳の原則 なぜ道徳というようなものが必要なのかということの考察 2) 「正義になかった社会」の諸構想 リベラリズムをめぐる論争の考察 3) グローバリズムが引き起こす倫理的問題 資源、モノ、技術、企業形態と貧困の関わり方の考察 4) 医療の場でのジレンマ問題 医療・看護の場でのような倫理的ジレンマが起こるのかということの考察 5) 生命倫理の諸問題 生命の処遇をめぐる倫理的問題の考察</p>						
授業に関連するキーワード	善き生		社会正義		グローバリズム		
	医療・看護とジレンマ		生命倫理				
成績評価の方法	授業中に課された小レポートと期末のレポートを総合的に評価する。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
教科書・参考書等に関する記述欄	参考文献は、その都度、講義の中で紹介していく。						
自由記述欄							

科目コード	5110080	単位	2	時間数	30		
授業科目名	文学論 A - 教養読書基礎講義 -	開講学期等	前期	時間割	金3・4		
授業科目名英字	Lecture on Literature A:Lecture on liberal reading						
備考	授業の形式		講義	必修・選択	選択		
	受講対象学生		全学部 1~4年				
内容的に密接に係る授業科目	特になし		履修する際に前提とする授業科目	特になし			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
成田 雅樹	教育文化学	教3 - 139	2531				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	月火木金曜日 12:50~16:00		【場所】	教育文化学部 3 - 139 (電話: 889 -		
授業の目的				授業の到達目標			
<p>(1) 映像化された作品と原作の文章表現との比較によって、文学作品をストーリーやプロット、レトリックの面から分析する方法を学習し、文学の本質について考察する。</p> <p>(2) 文学作品を作者の生き方と比較して分析する方法を学習することを通して、文学の本質について考察する。</p>				<p>(1) 原作の文章表現及び映像化された作品の構造を分析し、文学作品の様々な「しかけ」を理解することができる。</p> <p>(2) 原作と映像化された作品との比較を通して、文学的表現の本質について論述することができる。</p> <p>(3) 一般的な近代文学作品と児童文学作品の構造及び表現上の違いについて論述することができる。</p>			
カリキュラム上の位置付け	目的主題別としては「学問的方法」を主とする科目。また、教養基礎教育の目標2と関わって、文学作品を様々な方法で分析することを通して、文学を通して人間や文化を考察していく契機とするものであり、かつ発表、討論及び論文作成の基礎力を養おうとするものである。						
授業の概要と進行予定及び進め方	<p>【授業の概要】</p> <p>翻案(映画)と比較したり作者の伝記的資料を参照したりして作品の解釈を深め、レトリック等の文学的表現とその読み取り方を理解し、ミニレポートにまとめていく。</p> <p>【進行予定と進め方】</p> <p>1(4/13)回...オリエンテーション(本授業の特色・進め方解説、批評理論の概説、ミニレポート「私にとっての文学」)</p> <p>2(4/20)~4(5/11)回...明治期の文学として、夏目漱石の作品とその映像の比較検討、及び作者夏目漱石と作品の関わりについて考察する。「それから」を扱う。ミニレポート(映像と原作の比較・作家の人生と作品の比較)</p> <p>5(5/18)~6(5/25)回...大正期の文学として、芥川龍之介の作品と作者芥川龍之介との関わりについて考察する。「トロロコ」「厘気楼」を扱う。ミニレポート(作家の人生と作品との比較・長編と短編との比較・2作品の比較)</p> <p>7(6/1)~8(6/8)回...大正から昭和期の児童文学として、宮沢賢治の作品とその映像の比較検討、及び作者宮沢賢治と作品の関わりについて考察する。「注文の多い料理店」「セロ弾きのゴーシュ」を扱う。ミニレポート(映像と原作との比較・作家の人生と作品との比較・児童文学と成人向け作品との比較・2作品の比較)</p> <p>9(6/15)回...昭和期の文学として、太宰治の作品と作者太宰治との関わりについて考察する。「人間失格」を扱う。ミニレポート(作家の人生と作品との比較・例えば「走れメロス」との比較)</p> <p>10(6/22)~11(6/29)回...昭和期の児童文学として、新美南吉の作品と作者新美南吉との関わりについて考察する。「ごんぎつね」を扱う。ミニレポート(以前の読後感との通時的比較・作家の人生と作品との比較)</p> <p>12(7/6)~13(7/13)回...現代的な文学作品として、よしもとばななの作品とその映像の比較検討、及び作者よしもとばななと作品の関わりについて考察する。「つくみ」を扱う。ミニレポート(映像と原作との比較)</p> <p>14(7/20)~15(7/27)回...現代の児童文学作品として、立松和平のいわゆる命シリーズの比較検討、及び作者立松和平と作品の関わりについて考察する。「山のいのち」「海のいのち」「街のいのち」を扱う。ミニレポート(重ね読みによる「いのち」の意味の考察・絵本作品と文庫本作品との比較)</p> <p>16(8/3)回...試験(レポート)</p> <p>2回目までに「それから」を、9回目までに「人間失格」を、12回目までに「つくみ」を読んでおくこと。また、各作家のその他の作品を随時読み、授業中の発表に備えることが望ましい。</p>						
授業に関連するキーワード	同化と異化及び通時的比較と共時的比較	観想的態度		ストーリーとプロット及びアイロニーとリアリティ			
	解釈と物語スキーマ	視点及びシーンとサマリー		芸術的価値と内容的価値及び気分情調とアレゴリー			
	表層と深層及びメタファーとテーマ						
成績評価の方法	出席率と発表や討論などの授業への参加状況と態度、及び授業中のノート・カード類とレポートの内容などを総合して評価する。出席と提出物の提出回数(作家ごとのミニレポート7枚等と試験レポート1枚)が2/3に満たない者は不可とする。この条件を満たしかつ授業で解説した内容を理解している場合: C、授業内容をふまえた自身の考察が到達目標に達している場合: B、Bの者で提出物の内容が到達目標に十分達していると認められる場合: A、Aの者で内容理解や考察が特に優れている場合: S。配点は概ね、授業中の取組3.5点、提出物の内容3.5点、試験レポートの内容3.0点とする。追試・再試は行わない。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
	参考書	『文学理論のプラクティス』		土田知則・青柳悦子	新曜社	2001	
	参考書	『日本語の文体・レトリック辞典』		中村明	東京堂出版	2007	
教科書・参考書等に関する記述欄	「それから」「人間失格」「つくみ」以外の授業中に読むテキスト(原作の文章)及び資料は印刷して配布するが、図書館で借りるか文庫本を書店で購入することを勧める。また、作家の伝記的内容については、新潮社「文豪ナビ」シリーズが廉価で入門者向きである。						
自由記述欄	ミニレポートは、各回の授業をふまえて、各回のシラバスにあるテーマで家庭学習した結果をまとめて翌週に提出する。						

科目コード	5110110	単位	2	時間数	30		
授業科目名	日本の古典文学	開講学期等	前期	時間割	金3・4		
授業科目名英字	Japanese Classic						
備考	受講人数上限を50名とする。		授業の形式	講義	必修・選択	選択	
			受講対象学生	全学部 1～4年			
内容的に密接に関係する授業科目	日本文化基礎論III、日本文化論		履修する際に前提とする授業科目	なし			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
志立正知	教育文化学部日本・アジ	教文3-132	018-889-2611				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	木曜日13:00～14:20		【場所】	教3-132（志立研究室）		
授業の目的			授業の到達目標				
<p>日々の暮らしのなかで、何かに悩んだり迷ったりしたとき、古典を紐解いてみると、ちょっと心が軽くなったり、問題解決のヒントが見つかったりします。古典に対する知識や理解を深めることで、先人達の知恵に学ぶとともに、現代日本文化や日本人としての私たち自身のアイデンティティを形成している文化的伝統を自覚的に扱う意識を育てることを、本授業の目的とします。</p>			<p>1．基礎的教養としての古典文学に対する知識を習得し、古典に親しむことができる。 2．作品の歴史的・思想的背景に対する基礎的知識を身につけ、それについて説明できる。 3．古人の知恵に学び、現代が古典から継承しているものについて、自らの力で考え論じることができる。 4．自らの意見を積極的に発信するとともに、他者の意見に耳を傾け、効果的な議論ができる。</p>				
カリキュラム上の位置付け	幅広く深い教養、多角的でしなやかな思考力、総合的かつ自律的判断力を培い、豊かな人間性を涵養するという教養教育の目的に即し、大学人として必須の日本文化に対する基礎的理解と、それに根ざして今・自分を捉え直す力を身につけることをねらいとしています。目的主題別科目としては、人文科学分野における「学問の体系」を重視します。						
授業の概要と進行予定及び進め方	<p>【授業の概要】 古典文学作品、は先人達の英知の結晶です。そこには、当時の文化・思想などの伝統がさまざまな形で投影されています。それが今日なお読みつがれているのは、そこに普遍的な「人間」に対する深い洞察が潜んでいるからです。だからこそ、古典作品は今日なお生き生きとした光を放っているのです。 授業では、今日もっとも親しまれている古典のひとつである『徒然草』を扱います。『徒然草』の内容は多様で、ときに真摯な求道者の側面を見せるかと思えば、極めて実利的な実生活に即した処世訓を記したりもしています。だからこそ、時代や状況によってさまざまな読み方がなされてきたのです。こうした『徒然草』の多面的な側面それぞれに光を当てながら、兼好の生きた時代状況・思想的背景などを踏まえることで、兼好の求めた本質を明らかにします。あわせて、今日の日本人のアイデンティティに大きな影響を与えている「中世」という時代と、時代状況によって育まれた人生観・世界観に対する理解を深めます。また、レポートをとおして、自分自身の「生き方」を改めて見つめ直す姿勢を養います。</p> <p>【進行予定と進め方】 1．古典・テキストという概念について〔概説〕 2．中世的価値観の誕生と現代 3．『徒然草』前後 兼好の生きた時代とその前後 4．『徒然草』の構成 5～7．若き兼好と『徒然草』 序～三十段前後 貴族的価値観・無常の肯定・隠棲への志向 8．詠嘆的無常観から積極的無常観へ 9～10．無常との対峙【課題1】 「無常迅速」の認識・「寸陰愛惜」・「諸縁放下」 11．兼好の無常観のまとめ・兼好の眼差しとは【課題1レポート提出】 12～13．兼好の眼差しと現実感覚【課題2】 処世訓としての『徒然草』・『徒然草』の笑話 14．王朝への憧憬【課題2レポート提出】 15．まとめ</p>						
授業に関連するキーワード	中世(鎌倉末～南北朝)	無常観	人間観				
	自然観	隠遁	伝統的美意識				
成績評価の方法	帰属的価値観						
	1) レポート2回(各30%) 2) 課題に対する発言(20%) 3) リフレクション・ノート(毎回授業終了時に記入・提出、20%) 上記の総合で100点満点中、60点以上を合格とする。出席時数の取り扱い、「単位認定の決まり」による。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】		
	テキスト	『ビギナズ・クラシック日本の古典 徒然草』		角川文庫			
	参考書	『徒然草を読む』	永積安明	岩波新書			
	参考書	『無常観の文学』	小林智昭	弘文堂			
	参考書	『徒然草抜書』	小松英雄	講談社学術文庫			
教科書・参考書等に関する記述欄	*テキストは、各自、書店・生協などで用意すること。						
自由記述欄	レポートでネットからのコピー等が発覚した場合には、即座に不可とします。						

科目コード	5110120	単位	2	時間数	30		
授業科目名	東洋思想史	開講学期等	前期	時間割	木1・2		
授業科目名英字	Cultures in Japan and Asia V:History of Oriental Thought						
備考	授業の形式		講義	必修・選択	選択		
	受講対象学生		全学部 1～4年				
内容的に密接に関係する授業科目	中国文化基礎論、中国文化論、日中比較文化論、中国史基礎論、アジア歴史文化論		履修する際に前提とする授業科目				
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
吉永慎二郎	日本・アジア文化	2609	2609				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	木曜日 7・8時限		【場所】	3-130 (吉永研究室)		
授業の目的				授業の到達目標			
学習者がユーラシア的及び世界的視野からの中国文明や日本文明の展開に関する思想史的テーマや文明のシステムについての理解を深め、今日のアジア、世界を見るための知見や方法的諸概念を習得することを目的とする。				学習者は、1.ユーラシアの世界史的な文明の伝播、2.中国文明の成立と思想史的展開、3.中国文明の持続のシステム、4.日本文明の成立と持続のシステム、5.日中両文明の近代化、6.文明の集積としての国家論についての知見や方法的諸概念を身につける。			
カリキュラム上の位置付け	総合基礎教育の教養科目として、「学問の体系・知識の伝授を通じて、学問の古典的な体系やその視点に触れる」を主とする。また専門の中国文化論(思想史)、日中比較文化論への導入としての位置づけを持つ。						
授業の概要と進行予定及び進め方	<p>【授業の概要】</p> <p>一般的に考えられているほどに中国文明は他の影響と無関係に自足的に展開してきたわけではない。例えば、表の生産・彩陶・青銅器・鉄器などの技術や知識はいずれも、西方から伝播している。また文字の伝播についても同様の指摘がなされている。高度技術の伝播はしばしば民族の移動と文明の融合と再生を伴う。歴史的にはそれは三つの大きな思想変革として把握しうる。一つは殷から周への王権交代(殷周革命)の際の天の思想の形成とその後の諸子百家の思想の展開と開花であり、二つは仏教思想の伝播による儒教的中華思想の相対化という衝撃とこれを受けての朱子学の形成であり、三つは西洋近代文明の衝撃と近代化(西洋文明の受容と近代国家の建設)への思想展開とである。これらの文明の伝播や思想史的展開は、日本文明のありかたにも波及し一定の影響を与える。本講義では、これらの思想史的構図をふまえて中国文明と日本文明の展開と持続のシステム及び文明の集積としての国家論の類型について考察を加え概説する。</p> <p>【進行予定と進め方】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.文化とは何か、文明とは何か(単数の文明と複数の文明)</li> <li>2.ユーラシアにおける文明の伝播と中国文明</li> <li>3.ユーラシアにおける文字の伝播と漢字(漢字のルーツはどこか)</li> <li>4.地下型他界観と殷の帝の思想</li> <li>5.天上型他界観と周の天の思想</li> <li>6.天の思想と孔子</li> <li>7.孔子の思想と墨家</li> <li>8.墨家の思想と孟子</li> <li>9.孟子の思想と荀子</li> <li>10.孟家の思想と荀子</li> <li>11.国家論の類型(1)</li> <li>12.国家論の類型(2)</li> <li>13.中国文明の持続のシステム(儒教国教化と政教一体構造)</li> <li>14.中国文明の持続のシステム(仏教国教化と政教分立構造)</li> <li>15.日本文明の近代化</li> <li>16.中国文明の近代化</li> <li>16.テスト</li> </ol>						
授業に関連するキーワード	文化と文明	文明の伝播	文明持続のシステム				
	地下型他界観と天上型他界観	政教一体と政教分立	易姓革命と万世一系				
	近代化と現代化と民主化	立憲君主制と大統領制	三権分立と一党独裁				
成績評価の方法	テスト1回(80%)及び学習態度(20%)を総計して100点満点とし、60点以上を合格とする。テストは記述式とし、授業の知識・知見の基本的理解と習得が示されているかどうか、また論理的に見解が記述されているかどうか等を評価基準とする。欠席5回の時点で評価はDとする。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】		
	参考書	『中国史上・下』	宮崎市定	岩波全書	昭和52(1977)		
	参考書	『中国文明史』	W.エーバーハルト	筑摩	平成3(1991)		
	参考書	『儒教とは何か』	加地伸行	中公文庫	平成2(1990)		
	参考書	『パウウダ・仏教』	中村元	小学館	昭和62(1987)		
参考書	『戦国思想史研究』	吉永慎二郎	朋友書店	平成16(2004)			
教科書・参考書等に関する記述欄	教科書は特になし、授業にて配布するプリントと講義内容が教科書に相当します。						
自由記述欄							

科目コード	5110140	単位	2	時間数	30		
授業科目名	教育学 - 現代社会と教育 -	開講学期等	前期	時間割	火7・8		
授業科目名英字	Pedagogy : Modern Society and Education						
備考	授業の形式		講義	必修・選択	選択		
	受講対象学生		全学部 1～4年				
内容的に密接に関係する授業科目	履修する際に前提とする授業科目						
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
佐藤修司	学校教育課程	教文5号館509室	018-889-2541				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	金曜16:00-17:00		【場所】	教文5号館509室		
授業の目的				授業の到達目標			
学校教育にとどまることなく、生涯にわたる人間の発達をトータルに捉え、現代社会における教育のありようをさまざまな角度から分析する。				教育の側面から人間存在の現代社会における位置と課題・展望についての認識を獲得し、それを通して自らの成長過程・学校体験を相対化し、自己の存在を未来に向けて開いていく契機とする。			
カリキュラム上の位置付け	教育学関連科目の導入的位置にある。						
授業の概要と進行予定及び進め方	<p>【授業の概要】 現代社会と教育のありようについて、さまざまな映像資料を基本にしながらかえる。教育や学校、教師、そして、学校が抱えるさまざまな課題について考察を深める。</p> <p>【進行予定と進め方】 オリエンテーション：教育について考える 学校について考える(1)：映画『学校』を素材に 学校について考える(2)：" 教師について考える(1)：プロフェッションとしての教師 教師について考える(2)：" 子どもについて考える(1)：夜回り先生を素材に 子どもについて考える(2)：" 体罰・懲戒について考える 校則・子どもの人権について考える 受験競争について考える いじめについて考える 不登校について考える 引きこもりについて考える 戦争・平和と教育について考える グループ別検討会 授業内でレポートを作成し、発表するなどのことを行う。</p>						
授業に関連するキーワード	学校	教師	子ども				
	人権						
成績評価の方法	履修カード・授業内レポート(30%)、レポート(30%)、最終試験(40%)						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】		
	参考書	『よくわかる教育原理』	汐見稔幸他	ミネルヴァ書房	2011		
教科書・参考書等に関する記述欄	授業内で適宜指示する。						
自由記述欄							

科目コード	5110150	単位	1	時間数	15時間		
授業科目名	教育学 A - 現代社会と子育て支援 -	開講学期等	前期前半	時間割	木3・4		
授業科目名英字	Pedagogy A : Modern Society and Child care support						
備考	授業の形式		講義および演習	必修・選択	選択		
	受講対象学生		全学部 1～4年				
内容的に密接に関係する授業科目	履修する際に前提とする授業科目						
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
奥山順子	発達教育	教育文化学部5-308	018-889-2677				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	水曜日16:00-18:00		【場所】	教育文化学部5-308		
授業の目的				授業の到達目標			
現代社会における家族、特に乳幼児を育てる家族と地域社会とのかかわりの課題を考える。 これからの学校や幼児教育・保育施設の役割について考える。				子育てにかかわる親や保育者等の様々な人々の意識や、専門機関の役割が、現代社会の中でどのような変化を求められているのかについて問題意識を持つ。 現代の子育て・保育と地域社会・家庭とのかかわりについて自らの課題をとらえて考察する。			
カリキュラム上の位置付け							
授業の概要と進行予定及び進め方	<p>【授業の概要】 現代社会における子育てや教育、各種データや資料をもとに考察し、現代的な課題を通して子どもの発達や教育の本質を問う。</p> <p>【進行予定と進め方】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子育てと地域社会 子育てと地域社会のかかわりを歴史的視点から考察する。地域社会の教育機能</li> <li>2. 家庭の変化と子どもの価値 家族関係や家庭の機能の変化は、子どもの発達にどのような影響を及ぼしたか。家庭と学校（幼稚園・保育所）との関係</li> <li>3. 子どもが育つ環境 子どもは誰が育てるのか</li> <li>4. 子どもが育つ環境 大人にとっての子どもとは</li> <li>5. 「子育て支援」とは？ 「子育て支援」の目的、実践の現状と課題 誰が誰を支援するか？</li> <li>6. 地域の実情と子育て事情 多様な課題と可能性</li> <li>7. サービスと保育 企業による保育、保育サービス事業、子育ての外注化などについて、「ニーズに応じる保育」を、「ニーズを育てる」観点から検討し、これからの社会における子育てのあり方、親の役割を考える。</li> <li>8. まとめ</li> </ol>						
授業に関連するキーワード	教育	育児		社会			
	子育て支援						
成績評価の方法	レポート70% 授業中の課題30%						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
	参考書	『子育て支援とNPO』		原田正文	朱鷺書房	2002年	
	参考書	『<育てられる者>から<育てる者>へ 関係発達の視点から』		鯨岡峻	NHKブックス	2002年	
	参考書	『子ども学序説』		浜田寿美男	岩波書店	2009年	
教科書・参考書等に関する記述欄							
自由記述欄							

科目コード	5110151	単位	1	時間数	15時間		
授業科目名	教育学 B - 現代社会と子育て支援 -	開講学期等	前期後半	時間割	木3・4		
授業科目名英字	Pedagogy B : Modern Society and Child care support						
備考	授業の形式		講義および演習	必修・選択	選択		
	受講対象学生		全学部 1～4年				
内容的に密接に関係する授業科目	履修する際に前提とする授業科目						
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
奥山順子	発達教育	教育文化学部5-308	018-889-2677				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	水曜日16:00-18:00		【場所】	教育文化学部5-308		
授業の目的			授業の到達目標				
現代社会における家族、特に乳幼児を育てる家族と地域社会とのかかわりの課題を考える。 これからの学校や幼児教育・保育施設の役割について考える。			子育てにかかわる親や保育者等の様々な人々の意識や、専門機関の役割が、現代社会の中でどのような変化を求められているのかについて問題意識を持つ。 現代の子育て・保育と地域社会・家庭とのかかわりについて自らの課題をとらえて考察する。				
カリキュラム上の位置付け							
授業の概要と進行予定及び進め方	<p>【授業の概要】 現代社会における子育てや教育、各種データや資料をもとに考察し、現代的な課題を通して子どもの発達や教育の本質を問う。</p> <p>【進行予定と進め方】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子育てと地域社会 子育てと地域社会のかかわりを歴史的視点から考察する。地域社会の教育機能</li> <li>2. 家庭の変化と子どもの価値 家族関係や家庭の機能の変化は、子どもの発達にどのような影響を及ぼしたか。家庭と学校（幼稚園・保育所）との関係</li> <li>3. 子どもが育つ環境 子どもは誰が育てるのか</li> <li>4. 子どもが育つ環境 大人にとっての子どもとは</li> <li>5. 「子育て支援」とは？ 「子育て支援」の目的、実践の現状と課題 誰が誰を支援するか？</li> <li>6. 地域の実情と子育て事情 多様な課題と可能性</li> <li>7. サービスと保育 企業による保育、保育サービス事業、子育ての外注化などについて、「ニーズに応じる保育」を、「ニーズを育てる」観点から検討し、これからの社会における子育てのあり方、親の役割を考える。</li> <li>8. まとめ</li> </ol>						
授業に関連するキーワード	教育	育児	社会				
	子育て支援						
成績評価の方法	レポート70% 授業中の課題30%						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】		
	参考書	『子育て支援とNPO』	原田正文	朱鷺書房	2002年		
	参考書	『<育てられる者>から<育てる者>へ 関係発達の視点から』	鯨岡峻	NHKブックス	2002年		
	参考書	『子どもという価値』	柏木恵子	中公新書	2001年		
教科書・参考書等に関する記述欄							
自由記述欄							

科目コード	5110160	単位	2	時間数	16		
授業科目名	芸術と文化 - 日本の音楽文化 -	開講学期等	前期	時間割	水9・10		
授業科目名英字	Art and Culture I : Japanese Music						
備考	授業の形式		講義	必修・選択	選択		
	受講対象学生		全学部 1～4年				
内容的に密接に関係する授業科目	芸術と文化 II 世界の音楽		履修する際に前提とする授業科目				
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
武内 恵美子	音楽教育講座	2565	018-889-2565				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	水曜日 14：30～16:00		【場所】	教育文化学部2号館 206号室		
授業の目的				授業の到達目標			
日本の音楽の歴史を理解し、他国の音楽との相違を認識する。また音楽文化が社会に与える影響、果たす役割について理解する。				日本人としてのアイデンティティを持ち、日本の音楽について他者に説明し、議論できるようになる。留学生の場合は日本のことをより深く理解する。			
カリキュラム上の位置付け	幅広い教養としての日本文化ならびに音楽の知識を身に付け、音楽文化に対し偏りのない柔軟な姿勢と判断力を培う。						
授業の概要と進行予定及び進め方	【授業の概要】						
	【進行予定と進め方】 1. ガイダンス、古代の音楽1 縄文～古墳時代の音楽文化 2. 古代の音楽2 神楽、シルクロードの音楽 3. 古代の音楽3 雅楽・伎楽等 4. 古代の音楽3 声明 5. 中世の音楽1 舞の系譜 白拍子、曲舞、幸若舞 6. 中世の音楽2 能楽(猿楽) 7. 中世の音楽3 狂言 8. 中世の音楽4 田楽、平曲、風流、オラショ等 9. 近世の音楽1 歌舞伎 10. 近世の音楽2 文楽 11. 近世の音楽3 三味線音楽 12. 近世の音楽4 地歌箏曲、尺八等 13. 近代の音楽1 浪曲、唱歌、童謡 14. 近代の音楽2 浅草オペラ、宝塚歌劇団等 15. 現代の音楽 歌謡曲 16. 試験 音楽視聴の関係で、終了時刻が数分程度延長する場合があります。						
授業に関連するキーワード	日本音楽史	音楽	文化				
	日本文化						
成績評価の方法	1. 試験70%、受講姿勢30%により評価。 2. 全体の1/3(5回)以上欠席した場合は試験を受けても単位は認定しません。 3. 授業中の私語、携帯電話の操作は厳禁です。 4. 注意をしても受講態度を改めない場合は退室してもらいます。その場合の当日の出席はカウントしません。 5. 30分以上遅刻の場合は欠席とみなします。 6. 出席が足りていても試験を受けない場合は単位は認定しません。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】		
教科書・参考書等に関する記述欄	なし 授業でプリントを配布。						
自由記述欄							

科目コード	5110180	単位	2	時間数	30
授業科目名	芸術と文化 A - 絵画にみる音楽と文学の照応 -	開講学期等	前期	時間割	木5・6
授業科目名英字	Art and Culture IIIA:Common Themes in Arts				
備考	講義は一般教育2-203教室で行います。		授業の形式	講義	必修・選択
			受講対象学生	全学部 1~4年	
内容的に密接に関係する授業科目	アジア美術表現論		履修する際に前提とする授業科目		
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】
猪巻 明	美術教育	教文1-315	2556		
オフィスアワー	【曜日及び時間】	木曜日16:00~18:00		【場所】	教文1-315
授業の目的			授業の到達目標		
<p>芸術の融合（文学、絵画、音楽の照応）絵画と音楽の同一主題による芸術表現を追求する。ルネサンスから現代までの絵画芸術と音楽芸術（交響曲、交響詩、舞踏曲、歌劇、楽劇、歌曲、童謡、歌謡曲、邦楽、その他）を比較しながら、作品の時代背景と、画家と作曲家についての芸術における係わりを学ぶ。</p>			<p>1)近代の西洋音楽が文学（詩、小説、戯曲）と絵画の影響のもとに成立していることが理解できる。 2)西洋美術史の中で、イタリアルネッサンス（15世紀）、フランスロココ王朝時代（18世紀）、フランス象徴派・印象派（19世紀）、イギリスラファエル前派（19世紀末）、ベルギー象徴派・ウィーン分離派（19世紀から20世紀初頭）、フランス・ナビ派（19世紀末から20世紀前半）のそれぞれの芸術運動と様式が理解できる。 3)日本の浮世絵がフランス印象派の画家を始め多くの西洋の画家に影響を与え、その上西洋の近代音楽にまで示唆していることを理解して、説明できる。 4)近代日本画の中には日本の歌（歌曲、童謡）や歌謡曲を反映した作品が多くみられ、この二つはいかに大衆文化と密着しているかを理解して、説明できる。 5)邦楽と浮世絵、近代日本画と浮世絵版画と邦楽との対応により、日本の江戸時代以来の音楽と絵画の係わりを理解して、説明できる。</p>		
カリキュラム上の位置付け	絵画と音楽の同一主題による様々な芸術表現の追求により、一般教養としての芸術の理解を手助けしようとしたものです。				
授業の概要と進行予定及び進め方	【授業の概要】 CD、ビデオ等（音楽）拡大投影機、スライド、ビデオ等（絵画）による鑑賞を主として音楽と絵画の照応について学ぶ。				
	【進行予定と進め方】 1 レスビーギ「交響詩ポッティチェリの三枚の絵」（春、東方三博士の礼拝、ヴィーナスの誕生） 2 ドビュッシー「牧神の午後への前奏曲」「交響詩「海」 ストラヴィンスキー「春の祭典」 プーシェ「牧神とシュeringス」 3 ラヴェル「タフニスとクロエ」 シャガールが描いたパリ、オペラ座の天井画。ダフニスとクロエを描いた画家達 4 ドビュッシー「選ばれた女」19世紀末英国ラファエル前派作品と同一テーマの音楽 5 ドビュッシー「ペレアスとメリザンド」モリス・ドニの「セザンヌ礼讃」に描かれたメーテルリンクと親交のあったナビ派の画家達 6 R.シュトラウス「サロメ」 モローの「雅歌」と矢代秋雄の「ピアノ協奏曲」ヨハネ伝に登場するサロメを描いたイタリアルネッサンス・フィレンツェ派の画家達 7 ドビュッシー「月の光」 フォーレ「月の光」 ラヴェル「草の上」 ホフマン「舟歌」 ラヴェル「夜のガスパール」 ヴァトー「シテール島への船出」 銅版画家ジャック・カロ作品と絵画と音楽 8 ラフマニノフ 交響詩「死の島」 ワーグナーとベックリン、ワーグナーの楽劇と絵画 9 マラー「第1交響曲」クリムト三部作「哲学、医学、法学」とマラーの第8交響曲「クリムトの「彫刻」のアレゴリーとマラー第5交響曲と映画「ベニスに死す」 10 ヴィバルディ「四季」 曆絵とブリュゲル作品 ジャン・フランソワ・ミレーの四季を描いた作品 11 プッチーニ 歌劇「蝶々夫人」小早川清「お蝶夫人」と「蝶々夫人」初演の舞台衣装デザイン画 12 團伊玖磨 歌劇「夕鶴」北沢映月「ある月の安英さん」と福田豊四郎の挿絵「夕鶴」 13 日本の歌と近代日本画作品 山田耕作「この道」と山本丘人「残夢抄」 堂本印象「坂」 三浦文治「動物園行楽図」 14 歌謡曲と近代日本画作品 美空ひばり、石川さゆり、小林幸子、その他 15 邦楽の世界、鈴木春信「白鷺」と板東玉三郎の舞踊「白鷺」、鍋木清方「道成寺」と板東玉三郎の舞踊				
授業に関連するキーワード	ポッティチェリ		ドビュッシー		ラヴェル
	鈴木春信		シャガール		クリムト
	山本丘人				
成績評価の方法	出席を前提とした、3回のレポート（授業5回につき1回のレポート）の評価100%				
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】
	参考書	『象徴主義と世紀末芸術』		種村季弘訳	
	参考書	『ピアズリーと世紀末』		河村錠一郎著	
	参考書	『名画を見る眼』		高階秀爾著	
	参考書	『ルネッサンスの光と闇』		高階秀爾著	
	参考書	『美の回廊 ドラクワからミロまで』		高階秀爾著	
教科書・参考書等に関する記述欄	毎回の講義に用いるため作成したプリントを配布する。				
自由記述欄					

科目コード	5110190	単位	2	時間数	30		
授業科目名	倫理と人間 - 人間とは何か -	開講学期等	前期	時間割	木5・6		
授業科目名英字	Human Ethics: What is Human Being?						
備考	授業の形式		講義	必修・選択	選択		
	受講対象学生		全学部 1～4年				
内容的に密接に関連する授業科目	倫理学概論、西洋倫理思想史、比較倫理思想史、比較思想論		履修する際に前提とする授業科目	特になし			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
立花希一	教育文化学部	教文3-127	018-889-2608				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	火曜日 7 8 限		【場所】	研究室		
授業の目的				授業の到達目標			
人間と人間社会に対する理解をめざす。				人間や人間社会に対するアプローチや見解の多様性を知り、自己の人間観、社会観を形成する足掛かりをつかむ。			
カリキュラム上の位置付け	民主主義社会においては個々人が自分なりの見識をもつことが求められるが、そうした市民たるに必要な教養教育科目である。						
授業の概要と進行予定及び進め方	<p>【授業の概要】 「人間とは何か」を、いろいろな視点からアプローチする講義を行う。正解を提示するのではなく、受講生ひとりひとりが考えるきっかけを与えられるような講義にする予定である。</p> <p>【進行予定と進め方】 授業の内容は概ね以下の通りである。 1. ガイダンス（教養教育と専門教育） 2. 3. 4. 定義（分類）、存在について 5. 6. 人間とは（1）機械としての人間 7. 8. 人間とは（2）生物としての人間 9. 10. 心の出現（創発） 11. 人間とは（3）理性的存在者としての人間 12. 人間とは（4）自然と人為 13. 人間とは（5）個人と社会 14. 人間とは（6）人間と教育 15. テスト 16. テスト返却（解説）</p>						
授業に関連するキーワード	人間	動物	自律				
	理性	自然と人為	社会				
	自己						
成績評価の方法	10回以上の出席で、期末試験を受ける資格が生じる。10回未満は自動的に単位取得ができないので注意すること。成績評価は試験による。首尾一貫した思想を自分の言葉でどの位表現できるかが基準となる。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】		
教科書・参考書等に関する記述欄	教科書なし。プリントを用意する。参考文献は多数あるので、講義でプリントを渡す。						
自由記述欄							

科目コード	5110200	単位	2	時間数	30		
授業科目名	欧米の歴史	開講学期等	前期	時間割	木5・6		
授業科目名英字	Introduction to European and American History						
備考	授業の形式		講義	必修・選択	選択		
	受講対象学生		全学部 1～4年				
内容的に密接に関係する授業科目	履修する際に前提とする授業科目						
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
佐藤 猛	教育文化学部・欧米文化	教3 - 236	2666				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	水曜14：30～16：00		【場所】	研究室（3 - 236）		
授業の目的				授業の到達目標			
グローバル化のなかで揺れ動く「国家」と「国民」という現代社会の枠組みを、ヨーロッパの歴史という視点から、いま一度みつめ直すことを目的とする。				その具体的な題材として、中世ヨーロッパにおける国家の誕生、成り立ち、発展の歴史を理解することを通じて、 1．中世ヨーロッパにおける国家形成の特質を具体的に説明することができる。 2．私たちの生活や社会の基本的な枠組といわれる「国民・国家」のあり方を、いま一度みつめ直す視点を獲得する。			
カリキュラム上の位置付け	目的主題別科目「人間発達と文化」の授業として、欧米社会が人類とその文化の発達に欠くことのできない役割を果たしてきたことをふまえ、その歴史の一側面を学ぶ。						
授業の概要と進行予定及び進め方	<【概要～中世ヨーロッパにおける国家の成り立ちと発展～】> 私たちがよく知るヨーロッパの国くにはいつ頃から生まれ、イングランドやフランスといった国名やその国境、その国の住民であるという国民意識はどのような過程で形成されたのか？ これらの問題について、時にその当時の記録にもあたりながら考察する。なお、授業担当者の専門内容から、授業後半ではフランス王国の歴史が中心となる。 <【進行予定】> 第1回 授業テーマの意義および到達目標の解説 第2回 古代ローマ帝国の遺産：1～4世紀概要 第3回 " : ローマ帝国とその地方行政区の名称 第4回 中世諸王国の原型：8～11世紀の展開 第5回 " : ゲルマン移民の影響 第6回 " : キリスト教会の役割 第7回 封建制度とは何か：12・13世紀西洋中世社会の概要 第8回 " : 主従関係の仕組み 第9回 " : 主従関係を結ぶための儀礼とそのヨーロッパ的特質 第10回 王権の職務：13・14世紀フランス王国を中心に概要 第11回 " : 領土の拡大 第12回 " : 領土の分配 第13回 祖国愛そして国民意識の芽生え：14世紀英仏百年戦争の概要 第14回 " : 司祭の説教、パリ市民の声 第15回 " : 政治家の演説、年代記 <【進め方】> 講義形式で進め、各回の問題提起と内容の解説は板書で行う。しかし、フランスを中心に現地で撮影した画像を示すため、毎回、プリントの配布と画像の提示を心がける。またテーマの区切りごとに、授業の内容に関わる事柄について回答をもとめ、受講者は課題あるいは宿題として提出する。						
授業に関連するキーワード	古代ローマ帝国	属州		ゲルマンの大移動			
	中世ヨーロッパ	封建制度		キリスト教会			
	領土	百年戦争		祖国愛			
成績評価の方法	1 試験期間に行う試験：60％ 2 テーマごとに行うアンケートた授業外の学習を含めた通常点：40％ 1 + 2 を点数化して、60％に満たない者を不可とする						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
教科書・参考書等に関する記述欄	特になし（毎回プリントを配布し、そのなかで参考図書にふれる）						
自由記述欄							

科目コード	5110220			単位	2	時間数	30
授業科目名	哲学の世界 - 科学史・科学哲学 -			開講学期等	前期	時間割	月1・2
授業科目名英字	Philosophy II: History and Philosophy of Science						
備考				授業の形式	講義	必修・選択	選択
				受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目				履修する際に前提とする授業科目			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
勝守 真	国際コミュニケーション	教育文化学部3号棟228号室	018-889-2648				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	水曜日14:30-16:00		【場所】	研究室		
授業の目的				授業の到達目標			
				「人が旅をするのは、到達するためではなく、旅をするためである」(ゲーテ)。			
カリキュラム上の位置付け							
授業の概要と進行予定及び進め方	<p>【授業の概要】  雨はなぜ降るのか? 「水蒸気が凝結して水滴(水滴)が集まり、重力の作用で……」というのが、科学的に正しい説明だとされる。しかし、たとえば、「雨が降るのは、大地がうるおって草木が育つためだ」と答えてはいけないのだろうか? 近代以前の人々、たとえば古代ギリシャ人の多くは、そのように答えただろう。とすれば、近代科学的な自然の見かたは、いったいいつ、どのようにして成立したのか? また、それは今日の世界をどのように形づくっているのか?</p> <p>この授業では、古代・中世の自然観と比較しながら、自然を「機械」のように数理的にとらえる近代科学の特質に注目する。さらに、近代科学の歩みを現在までたどり、とくに20世紀のアインシュタインやボーアの思想を取り上げて考察する。</p> <p>文系・理系を問わず、考えるのが好きな人を歓迎します。</p> <p>【進行予定と進め方】  健康と環境のため、冷房の使用をできるかぎり控えます。そのため、数回の補講を行ったうえで、学期の終了以前(とても暑くなる前)に授業を終え、試験を行う可能性があります。</p>						
授業に関連するキーワード							
成績評価の方法	試験(論述式)						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
	参考書	『図解雑学哲学』		貫成人	ナツメ社		
	参考書	『ソフィーの世界』		ゴルデル	NHK出版		
	参考書	『思想史のなかの科学』		伊東俊太郎他	平凡社		
教科書・参考書等に関する記述欄							
自由記述欄							

科目コード	5110240			単位	2	時間数	30
授業科目名	哲学の世界 - 論理学入門 -			開講学期等	前期	時間割	火1・2
授業科目名英字	Philosophy IV: Introduction to Logic						
備考	授業の形式		講義・演習	必修・選択	選択		
	受講対象学生		全学部 1～4年				
内容的に密接に関係する授業科目	履修する際に前提とする授業科目						
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
勝守 真	国際コミュニケーション	教育文化学部3号棟228号室	018-889-2648				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	水曜日14:30-16:00		【場所】	研究室		
授業の目的				授業の到達目標			
				「人が旅をするのは、到達するためではなく、旅をするためである」(ゲーテ)。			
カリキュラム上の位置付け							
授業の概要と進行予定及び進め方	<p>【授業の概要】 「きょうは寒い」というのと「きょうは寒くないことはない」というのとは、ふつう必ずしも同じ意味ではない。ところが、両者(肯定と二重否定)を同一視する奇妙(?)な世界がある。数理科学の大部分がそうだし、言語学などの一部もその発想にもとづいている。</p> <p>この授業ではまず、そのような発想を体系化した論理学という分野、とくに現代の記号論理学の基礎を学ぶ。また、そのような論理の枠に収まりにくいパラドクス(逆説)の問題、たとえば「私がいま言っていることはウソだ」という「うそつきのパラドクス」なども取り上げる。さらに、二律背反や弁証法など、広義の論理をめぐる哲学的諸問題にもふれる予定である。</p> <p>文系・理系を問わず、考えるのが好きな人を歓迎します。</p> <p>【進行予定と進め方】 健康と環境のため、冷房の使用をできるかぎり控えます。そのため、数回の補講を行ったうえで、学期の終了以前(とても暑くなる前)に授業を終え、試験を行う可能性があります。</p>						
授業に関連するキーワード							
成績評価の方法	試験(論述を含む)						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
	教科書	『論理学の基礎』		飯田賢一他	昭和堂		
教科書・参考書等に関する記述欄							
自由記述欄							

科目コード	5110260			単位	2	時間数	30時間	
授業科目名	障害と共生 - 福祉と人権 -			開講学期等	前期	時間割	月7・8	
授業科目名英字	Mainstreaming of People with Disabilities Disabilities and co-existence							
備考				授業の形式	講義	必修・選択	選択	
				受講対象学生	全学部 1～4年			
内容的に密接に関係する授業科目				履修する際に前提とする授業科目				
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	
内海 淳	障害児教育講座	4-511	2548					
オフィスアワー	【曜日及び時間】	12:00～13:00			【場所】			
授業の目的				授業の到達目標				
1) 障害者及び障害者福祉の基礎的理解をする。 2) 障害者の権利擁護の意義を理解する。				1) 障害者問題は身近な問題であることを説明できる。 2) ノーマライゼーションの意味を説明できる。 3) 障害者福祉の特質と仕組みを説明できる。 4) 人権侵害の背景と権利擁護の在り方を説明できる。 5) 当事者活動の意義を説明できる。				
カリキュラム上の位置付け								
授業の概要と進行予定及び進め方	<p>【授業の概要】 障害者の福祉に関して基礎的理解をするとともに、権利擁護の観点からその在り方を学びます。</p> <p>【進行予定と進め方】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 福祉の概念と障害者の実態</li> <li>2. 「障害」の捉え方</li> <li>3. 福祉の理念</li> <li>4. 障害者施策に関する動向</li> <li>5. 障害福祉の枠組み</li> <li>6. 障害者の地域生活</li> <li>7. 障害者の地域生活</li> <li>8. 障害者の就労</li> <li>9. 障害者の就労</li> <li>10. 障害者の人権</li> <li>11. 障害者の人権</li> <li>12. 障害福祉の課題</li> <li>13. 障害福祉の課題</li> <li>14. 障害福祉の課題</li> <li>15. まとめ</li> </ol>							
授業に関連するキーワード	福祉	障害者			障害概念			
	福祉理念	人権						
成績評価の方法	出席状況及びレポート							
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】			【著者】	【出版社】	【出版年】	
教科書・参考書等に関する記述欄								
自由記述欄								

科目コード	5110270	単位	2	時間数	30		
授業科目名	障害と共生 - 自立と社会参加 -	開講学期等	前期	時間割	火3・4		
授業科目名英字	Mainstreaming of People with Disabilities II: Disability and Coexistence - Independent Living -						
備考	授業の形式		講義	必修・選択	選択		
	受講対象学生		全学部 1～3学年				
内容的に密接に関連する授業科目	「障害と共生I」と関連する授業である。		履修する際に前提とする授業科目				
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
大城英名	教育文化学部	教文4 - 510・2534	2534				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	講義時間以外随時		【場所】	大城研究室		
授業の目的				授業の到達目標			
障害があってもなくても、みんなと共に暮らし、働き、生きていくことのできる「共生の社会」のたいせつさを理解する。				1)障害のある人びとにとっての「自立」とは何が理解することができる。 2)障害のある人もない人も「共に生きる社会」がノーマルであることを理解することができる。 3)障害の「医学モデル」のみならず「社会モデル」の重要性について説明することができる。			
カリキュラム上の位置付け	教養教育科目「人間と人権」の「障害と共生」の1つとして設定。						
授業の概要と進行予定及び進め方	【授業の概要】						
	<p>授業では、障害のある人々が社会で自立的に生きていくドキュメンタリーを取り上げながら、障害がある人々もない人々も「共に生きる社会」が大切であることの理解を深める。</p> <p>【進行予定と進め方】</p> <p>第1回 障害があってもなくても：障害とは何か、自立とは何か  第2回 障害があってもなくても：ヘレン・ケラーほか  第3回 障害があってもなくても：高橋竹山（津軽三味線奏者）・小林ハル  第4回 共生への道：出会わなければはじまらない  第5回 共生への道：自立へのはばたき  第6回 共に育つ：母よ嘆くなかれ（パール・バック、「大地」）  第7回 共に育つ：親、兄弟、家族の悩みと喜び  第8回 支えあう社会：全盲の夫婦の子育て  第9回 支えあう社会：知的障害の夫婦の結婚  第10回 地域で共に暮らす：家族とくらす  第11回 地域で共に暮らす：グループホーム・施設でくらす  第12回 地域で共に暮らす：ひとりでくらす  第13回 地域で共に暮らす：夫婦でくらす  第14回 共に働く：あなたと一緒に働きたい  第15回 共に働く：働くことと生きること  * 授業の実施順序および内容を若干変更するときがある。</p>						
授業に関連するキーワード	障害	共生	ノーマライゼーション				
	自立生活	地域生活	就労				
成績評価の方法	出席状況40%、毎回の小レポート60%、総合的に評価し60点以上を合格とする。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
		『母よ嘆くなかれ』		パール・バック	法政大学出版		
		『奇跡の人』		ヘレン・ケラー	新潮文庫		
		『ダウン症の子をもって』		松村公宏	新潮文庫		
		『津軽三味線ひとり旅』		高橋竹山	中央文庫		
教科書・参考書等に関する記述欄							
自由記述欄							

科目コード	5120030	単位	2	時間数	30		
授業科目名	自然環境と資源 A - 地球環境と化学元素 -	開講学期等	前期	時間割	月1・2		
授業科目名英字	Natural Environment and Resources : Global Environment and Chemical Elements						
備考	授業の形式		講義	必修・選択	選択必修		
	受講対象学生		全学部 1~4年				
内容的に密接に関係する授業科目	履修する際に前提とする授業科目		特にありません。高校で理科総合Aを履修していれば、化学I,IIを履修していなくても、学習によって理解できる内容です。				
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
岩田吉弘	教育文化学部自然環境講	教文3-218	2622				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	木曜日、13時から14時30分まで		【場所】	教文3-218		
授業の目的			授業の到達目標				
地球環境における化学物質の分布と生体内での機能、環境影響についての理解			1, 元素の生成と地球環境での分布について理解し説明できる。 2, 生体内での化学元素の存在量と機能について理解し説明できる。 3, 人間活動により生成した化学物質の環境への影響について理解し説明できる。				
カリキュラム上の位置付け	環境、化学、生命科学を専門とする学生には、地球化学、無機化学、生物無機化学の入門的な内容。それらを専門としない学生には、地球環境と化学の関わりについて教養を高める内容。						
授業の概要と進行予定及び進め方	<b>【授業の概要】</b> 地球環境における化学物質の分布と生体内での機能、環境影響について、具体例をしめしながら講義します。  <b>【進行予定と進め方】</b> 1, 化学元素の定義と単位、記号 2, 地球の構造 3, 宇宙における元素の生成と存在量 4, 地圏での元素の存在量 5, 大気圏での元素の存在量 6, 水圏、特に海洋における元素の存在量と移動 7, 化学物質の毒性と必須性 8, 生体における元素存在量と機能 9, 微量化学成分の化学分析 10, 水質および大気モニタリング 11, 光と物質の相互作用 12, 大気の化学組成とその変遷 13, 地球環境での炭素の存在量とその循環 14, 地球規模での大気環境問題、(1)地球温暖化と二酸化炭素 15, 同、(2)酸性雨と硫黄化合物 16, 同、(3)フロン等の難分解性化学物質による環境汚染とまとめ						
授業に関連するキーワード	地球環境	大気圏		海洋			
	生体	化学元素		必須元素			
	有毒元素						
成績評価の方法	授業3回目以降、毎回10分程度のマークシート形式の小試験を行います。 合否：小試験の成績が60%以上を合格とします。 履修放棄：出席日数が2/3に満たない者 成績不振者、無断欠席者に対するレポート提出や再試験等による救済措置は一切行いません。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】		
教科書・参考書等に関する記述欄	参考書・教科書は用いません。プリント、OHP、プロジェクターを利用します。						
自由記述欄							

科目コード	5120050			単位	1	時間数	1
授業科目名	天体観測入門 - 太陽・月・惑星 -			開講学期等	前期前半	時間割	水7・8
授業科目名英字	Introduction to Astronomical Observation:						
備考	受講可能人数は上限25名です。それより受講希望者が多い場合は、初回の授業で抽選の上受講者を決定します。			授業の形式	演習・実習	必修・選択	選択
				受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目	なし			履修する際に前提とする授業科目	なし		
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
林 信太郎	教文	3号館311	0188892651				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	木曜日 8-10時		【場所】	教育文化学部3号館311		
授業の目的				授業の到達目標			
天体に親しみ、惑星科学・宇宙科学の教養レベルの知識を身につける。宇宙空間のスケールの大きさを、理解するとともに実感する。				天体望遠鏡の仕組みについて理解し、天体望遠鏡を操作でき、惑星や月を観察できる。主な惑星の特徴を理解し、説明できる。月の形成史を理解し説明することができる。宇宙の大きさを実感し説明することができる。			
カリキュラム上の位置付け	学問の進展：学生との討議を通じて、人類が未解決の問題について考える。 【解説】実習中、教員－学生あるいは学生－学生間で、宇宙や星、人類に未来について語り合います。人類の宇宙における位置づけについて大局的に考察するのがこの授業の究極の目的です。						
授業の概要と進行予定及び進め方	<p>【授業の概要】 定時に行なう演習・観察が4回、定時以外の観察が4回（予定；天候次第）</p> <p>【進行予定と進め方】 天体の状況、天候の状況によって異なってくる。 以下の内容と日程（暫定版）を予定している。 #水曜日7・8に行なう授業 ・ガイダンス（4月11日；2回（2時30分と3時30分）ガイダンスを行なう；受講希望者多数の場合は抽選で決定） ・天体望遠鏡の使い方（4月18日） ・木星の衛星に関する演習（4月25日、5月2日） ・太陽面観察（4月25日、5月2日） ・太陽の自転に関する演習（5月9日） #夜間あるいは早朝に行なう授業 ・部分日食の観察（5月21日朝；宿題とする。千葉県などでは金環食が見られる） ・月の観察（午後6時集合午後9時頃解散；5月1日～5月2日の最初に晴れた夜；晴れなかった場合は翌月の同時期） ・金星の太陽面通過の観察（6月6日朝から昼；午前中あるいは昼休み時間に天文台前の屋上スペースで観察） ・このほかに金星など惑星の観察を行ないます。 天体の運行状況や天候によって左右されるので、実習が予定通りに進むとは限りません。夜間や早朝の実験が多く、場合によってはアルバイト等に支障を生じる場合もある。天体及び天候の都合を優先し、学生のアルバイトの時間帯は考慮しない（できない）こととする。詳しい日程表は第1回の授業で資料を配布し説明する。 なお、授業の正規の時間帯で行う実習は2時間程度で時間のほとんどは夜間の観測とする。 受講上の注意：望遠鏡で太陽を見ないこと、また、屋上フェンスを越えないこと。 新天体望遠鏡（45cmリッチー・クレチアン式望遠鏡）を活用して実習を行なう。</p>						
授業に関連するキーワード	天体望遠鏡	月	太陽				
	惑星						
成績評価の方法	レポートによる。出席数が2/3に満たない場合あるいは平常点が6割に見たない場合は不合格とする。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】		
	授業の中で紹介する						
教科書・参考書等に関する記述欄							
自由記述欄	時間帯がきわめて不規則です。観測ができるかどうかは天気次第ですので、夜間のアルバイトとの両立はかなり難しいものがあります。アルバイト等を優先する方の受講はおこわります。						

科目コード	5120060	単位	2	時間数	30		
授業科目名	地球の環境と資源 A - 地層の話 -	開講学期等	前期	時間割	水9・10		
授業科目名英字	Global Environment and Resources IV B: Introduction to Geological Sciences						
備考	なし	授業の形式	講義	必修・選択	選択		
		受講対象学生	全学部 1～4年				
内容的に密接に関係する授業科目	とくになし	履修する際に前提とする授業科目	とくになし				
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
(責)内田 隆	工学資源学部	工資2 B304	889-2652	佐藤時幸	工学資源学部	工資2 G214	889-2371
大場 司	工学資源学部	工資2 G307	889-2374				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	火曜日12:00～12:30		【場所】	工資2 B304		
授業の目的				授業の到達目標			
地層記録を素材として、地球科学的自然認識方法および地球上に発生する諸現象を学ぶとともに、地球誕生以来の地球史に関する認識を深めることを目的とする。				1) 地層が地球史のデータベースであることを具体例にもとづいて説明できる。 2) 地質学的自然現象認識方法を解説できる。 3) 地球史が単なる漸進的変化ではなく、さまざまなイベントで構成されていることを理解できる。 4) 地震や火山噴火などの地質学的事象の発生を支配している統一的過程について説明できる。 5) 日本列島に自然災害が多発する原因を理解するとともに、日常生活のあり方について考察できる。			
カリキュラム上の位置付け	本講義は目的・主題別科目のうち、「自然環境と地球」を構成する。受講するにあたって高校までの理科に関する平均的知識を必要とするが、特別な予備知識を前提しない。						
授業の概要と進行予定及び進め方	<b>【授業の概要】</b> 基礎編 1. ガイダンス 2. 地球の誕生：地球科学の基礎 3. 地層は時計である：地質学的認識の基礎 4. 古生物の進化の記録と地質時代区分：地質時代区分は何を根拠にしているか 5. 年代を測る：地質時代はどのように測定されているか 答論編 6. ワンダフルライフ：カンブリア紀の爆発：高等動物大量出現の何が起こったか 7. 大量絶滅の謎：恐竜やアンモナイトはなぜ一斉に地球上から姿を消したか 8. マグマの働き：火山噴火の正体 9. 火山噴火のタイプ：火山噴火はどのように起こるか 10. 地層の形成と変形、地殻変動：地層のできかたと構造運動 11. 環境変動はなぜ起きる：地球の気候は驚くほど変化する 12. 地球温暖化は本当か？：地球は生きている 13. 将来のエネルギー？メタンハイドレート：エネルギー資源の救世主になるか 総括編 14. プレートテクトニクス：地球表層で進行している基本過程 15. 地下の地層の状態を探る：地下の地層の様子から地史を解釈しエネルギーを探査する <b>【進行予定と進め方】</b> 詳細については、初回のガイダンスで説明する。						
授業に関連するキーワード	地質学	古生物（化石）		進化			
	マグマ	火山噴火		地球環境変遷			
	プレートテクトニクス	ハイドレート					
成績評価の方法	出席の状況および期末の試験結果で判定する。60点以上を合格とする。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
教科書・参考書等に関する記述欄	教科書は使用しないが、毎回の講義に資料を配付する。必要に応じて参考書を紹介する。						
自由記述欄							

科目コード	5120070		単位	1	時間数	15	
授業科目名	地球の環境と資源 - 資源問題と地球環境 -		開講学期等	前期前半	時間割	月3・4	
授業科目名英字	Global Environment and Resources V:Problems of Resources and Environment						
備考			授業の形式	講義	必修・選択	選択	
			受講対象学生	全学部 1～4年			
内容的に密接に関係する授業科目			履修する際に前提とする授業科目				
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
佐藤 博	地球資源	工資 2-B214	889-2391	杉本文男	地球資源	工資 2-B215	889-2394
大友崇徳	地球資源	工資 2-B207	889-3054	今井忠男	地球資源	工資 2-B214	889-2388
網田和宏	地球資源	工資 2-B212	889-2372	尾西恭亮	地球資源	工資 2-B208	889-2751
村上英樹	環境資源学研究センター	工資 研-207	889-2446				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	月曜 16:00～17:00		【場所】	上記教員室		
授業の目的				授業の到達目標			
<p>私たちが資源を入手し、それを利用するとき何が問題となるか、また資源の開発・消費が地球環境にどのような影響を与えるかを学習する。この問題は、私たちが社会の様々な分野で様々な形で活動するとき、常に何らかの形で関係してくるものであり、そのようなときにどう考えたらよいかを、この授業を通じて理解することを目標とする。</p>				<p>1) 資源と地球環境についての社会的な関心を持つことができる。 2) 資源と地球環境について様々な要因と異なる考え方が理解し、その解決手法について自らの意見を説明できる。 3) 社会的な問題である資源と地球環境についての教養とそれに対する自身の意見を持つことができる。</p>			
カリキュラム上の位置付け	教養基礎教育の目標2の「現代の諸課題の認識につながる特色のある科目」に相当する。						
授業の概要と進行予定及び進め方	<p>【授業の概要】 資源・エネルギー開発に関わる環境問題を種々の工学的観点から取り上げ、これを分析、整理する。</p> <p>【進行予定と進め方】 第1回 担当：佐藤 最近の資源・エネルギー、環境問題に関するトピックスを、新聞記事等（和文、英文）に基づいて解説する。 第2回 担当：網田 水資源の現状と水質汚染の問題について説明する。 第3回 担当：村上 原子力エネルギーの可能性と問題点について解説する。特にエネルギー政策としての利点、環境への影響、廃棄物処理問題等を中心に説明する。 第4回 担当：尾西 石油エネルギーの現状と地球温暖化対策について説明する。 第5回 担当：大友 金属資源から素材を得るまでの製錬プロセスについて解説する。 第6回 担当：杉本 金属鉱物資源の開発、閉山後の環境問題について説明する。 第7回 担当：今井 人はこれまで「どのようにして鉱物を道具として利用してきたか」、「どのようにして有用な鉱物を発見し開発してきたか」、「それらに伴う環境問題とは何であったのか」について、身近な材料や道具を例にとつて考え、説明する。 また、総括レポートの課題について説明する。 第8回 担当：佐藤 課題レポート提出日 なお、都合により上記の講義の順番を入れ替えることもある。</p>						
授業に関連するキーワード	資源の将来		資源リサイクル		資源開発の歴史		
	環境・経済倫理		エネルギー資源		大気CO2と地球温暖化		
	資源開発技術						
成績評価の方法	各時間での課題レポートおよび総括レポートを総合して評価し、総合60%以上を合格とする。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
教科書・参考書等に関する記述欄							
自由記述欄							

科目コード	5120080		単位	1	時間数	15	
授業科目名	環境と社会 A - 地域環境とインフラストラクチャー -		開講学期等	前期前半	時間割	木7・8	
授業科目名英字	Environment and Society A:Regional Environment and Infrastructure						
備考			授業の形式	講義	必修・選択	選択	
			受講対象学生	全学部 1～4年			
内容的に密接に関係する授業科目			履修する際に前提とする授業科目				
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
木村一裕	工学資源学部	総合研究棟7F 教員室	2368	日野 智	工学資源学部	総合研究棟7F 教員室	2359
浜岡秀勝	工学資源学部	総合研究棟7F 教員室	2974				
長谷部薫	工学資源学部	工資1-409	2358	徳重英信	工学資源学部	工資1-412	2367
及川 洋	工学資源学部	工資1-415	2360	松富英夫	工学資源学部	工資1-416	2363
オフィスアワー	【曜日及び時間】			【場所】			
授業の目的				授業の到達目標			
われわれが日常生活を営んでいる都市や地域社会では、誰もが安全、安心、快適に生活でき、そして美しい空間の創出が望まれる。そのために必要な諸施設を社会資本という。まず、はじめに社会資本について学び、ついでその整備理念と手法について学ぶ。その後に具体的な整備例について履修する。				1. 社会資本（インフラストラクチャー）とはどのように分類されるのか理解し、他に説明できるようにする。 2. 地域環境に及ぼす社会資本整備について理解し、他に説明できるようにする。 3. 社会資本整備理念を学び、ついで具体例として、鋼、コンクリート、木材による橋梁、地盤災害、水環境を取り上げ、理解できるようにし、他に説明できるようにする。			
カリキュラム上の位置付け	日常生活に不可欠な社会資本整備について履修し、その整備手法について習得することを目的とする講義である。						
授業の概要と進行予定及び進め方	<b>【授業の概要】</b> <b>【進行予定と進め方】</b> 第1回：社会基盤施設とは何か、その分類と整備理念について 第2回：持続可能な都市・地域について 第3回：環境に配慮した交通について 第4～6回：社会基盤整備の中での鋼・木・コンクリート材料について 第7～8回：地盤災害と水環境						
授業に関連するキーワード	社会基盤		社会資本整備の理念		都市と交通		
	建設材料		建設構造物		地盤災害		
	水環境						
成績評価の方法	レポート（80％）、出席状況等（20％）を考慮して総合的に評価する。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
教科書・参考書等に関する記述欄							
自由記述欄							

科目コード	5120100			単位	1	時間数	15
授業科目名	ライフサイエンス A			開講学期等	前期後半	時間割	火5・6
授業科目名英字	Life Science IIIA						
備考	授業の形式			講義・演習	必修・選択	選択	
	受講対象学生			全学部 1～4年			
内容的に密接に関係する授業科目	履修する際に前提とする授業科目						
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
河又邦彦	教育文化学部	教育文化4号館312号室	018-889-2590				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	随時		【場所】	教育文化4号館312号室		
授業の目的				授業の到達目標			
<p>遺伝学の知識が必要な事象が増えてきています。食品には遺伝子組換え作物があふれ、犯罪捜査にはDNAが欠かせません。このような事象を理解するための基礎として、メンデル遺伝を理解することを目的にします。内容は高校生物Iの範囲です。遺伝学へ興味をもってもらうことが第2の目的です。</p>				<p>1) 遺伝子および形質とタンパク質の関係を理解する。 2) 染色体の挙動を説明できる。 3) 簡単な入試問題を解くことができる。</p>			
カリキュラム上の位置付け	教養教育						
授業の概要と進行予定及び進め方	<p>【授業の概要】 メンデル遺伝の問題を解くことで、遺伝学の初歩を理解していきます。学生の理解度を把握するため、すべての人の顔と名前を覚えて授業を行いますので、1回目の授業で顔写真の撮影を行います。必ず出席してください。</p> <p>【進行予定と進め方】 1) 身の回りの遺伝現象 2) 形質とは 3) 遺伝子とタンパク質 4) メンデル遺伝の法則 5) 染色体の挙動 6) 性染色体と遺伝子</p> <p>課題： 一遺伝子雑種を理解するいろいろな問題 二遺伝子雑種を理解するいろいろな問題 伴性遺伝を理解するいろいろな問題</p>						
授業に関連するキーワード	メンデル遺伝		染色体		タンパク質		
	減数分裂		伴性遺伝		DNA		
	形質						
成績評価の方法	課題，試験により判定する。3回以上休んだ場合は再履修となる。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
教科書・参考書等に関する記述欄							
自由記述欄							

科目コード	5120110			単位	2	時間数	30
授業科目名	生活の科学 - 衣生活の科学 -			開講学期等	前期	時間割	火7・8
授業科目名英字	Family and Consumer Science I:Clothing for Qualitlital Life						
備考	授業の形式			講義	必修・選択	選択	
	受講対象学生			全学部 1～4年			
内容的に密接に関係する授業科目	履修する際に前提とする授業科目						
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
石黒純一	教育文化	教文1-304	889-2551				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	金曜日、15:00～17:00		【場所】	教文1-304		
授業の目的				授業の到達目標			
衣服の性能と着衣の目的を理解し、生活の場において適切な衣服の選択と着用品ができるようにする				衣服の材料としての繊維・糸・布の関係を説明できる。 表現として衣服を着る場合のポイントの説明ができる。 防御のために衣服を着る場合のポイントの説明ができる。 現在の自分の着衣状態について説明と評価ができる。 他人の着衣状態について説明と評価ができる。			
カリキュラム上の位置付け	「着る人」を前提にして我々の感性に密着した現代課題としての科学・技術を考えたい。						
授業の概要と進行予定及び進め方	<p>【授業の概要】 衣服に対する消費者の要求を次の8点にまとめ、それぞれについて、本講義の到達目標に則し、その要求内容、要求を満たすための衣服の性能とその実現状況について、それぞれ解説する。</p> <p>【進行予定と進め方】  (0) ガイダンス 我々の衣生活システム (一回)  (1) 衣服の外観 - 衣服が表現するもの - (三回)  (2) 衣服の着心地 - 我々が衣服に求めるもの - (二回)  (3) 取扱易さ - 繰り返し着用できる衣服 - (二回)  (4) 形態安定性 - 古くなる衣服 - (二回)  (5) 環境形成 - 衣服は我々の体の回りに微小環境を作る (二回)  (6) 安全性 - 製造物の安全性 - (一回)  (7) 経済性 - 格安品から高級ブランド品まで - (一回)  (8) 環境保全性 - 循環型社会における衣服の使用 - (一回)</p>						
授業に関連するキーワード	衣生活	アパレル		快適性			
	絹織物						
成績評価の方法	評価方法：定期試験70%，講義に際し適宜行う小テスト（30%）。判定基準：指定する内容が回答されているか。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
教科書・参考書等に関する記述欄							
自由記述欄							

科目コード	5120130	単位	1	時間数	15		
授業科目名	化学の世界 A - 最新の化学 -	開講学期等	前期後半	時間割	火5・6		
授業科目名英字	The Chemical World A						
備考	授業の形式		講義	必修・選択	選択		
	受講対象学生		全学部 1～4年				
内容的に密接に関係する授業科目	入門化学		履修する際に前提とする授業科目				
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
中田真一	環境応用化学科	工資4-210	2437 (090-3008-7565)	小笠原正剛	環境応用化学科	工資4-214	2445
松本和也	環境応用化学科	工資4-321	2443				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	水曜日 11:00～13:00		【場所】	工資4-210 (中田)		
授業の目的				授業の到達目標			
現代社会で話題になっている科学技術や身のまわりの物質について、「化学」が身近なところであり、「ものづくり」において「環境に配慮した化学」(グリーンケミストリー)が基本になっていること、また環境問題を解決していくのも「化学の力」であることを学ぶ。				[1]有機・高分子化学, 無機化学, プロセス化学, 環境化学の身近な話題を取り上げることができる。 [2]化学的な考え方で身のまわりの物質やプロセス, システムについて説明できる。 [3]「化学物質」の正しい管理や使用方法について, いくつか例示して説明できる。			
カリキュラム上の位置付け	化学という学問への導入教育の一つであり, 化学への興味を喚起するために開講する。						
授業の概要と進行予定及び進め方	<p>【授業の概要】 化学への興味を喚起することを狙って, 身近な事柄についての化学的な考え方(思考)や社会と「化学という学問」の繋がりを紹介する。</p> <p>【進行予定と進め方】 以下の内容に関して3名の教員が分担して講義する。なお下記は予定であり, 講師や順番の変更がある場合は適時連絡する。 [1]化学の眼で見る石油とその代替燃料(化学的視点で見た身近なエネルギーについて) [2]「分子」を見よう, 扱おう, つくろう!! (化学概論) [3]結晶性無機化合物の合成と構造解析(無機プロセス化学) [4]無機系多孔質材料の現状とこれから(無機化学の応用) &lt; [1]～[4]の内容についてのレポート課題 &gt; [5]有機・高分子化学概論 [6]身の周りの有機化合物 [7]現代社会を支える高分子化合物 [8]環境問題と高分子材料, 化学物質の安全管理, 講義のまとめ &lt; [5]～[8]の内容についてのレポート課題 &gt;</p>						
授業に関連するキーワード	分子・原子	分析化学		有機化学			
	高分子化学	無機化学		生化学			
	化学プロセス	グリーンケミストリー (GC)		エネルギー			
成績評価の方法	2回の課題レポートにより評価する。(詳しくは最初の授業で説明する。)						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
	参考書	『材料化学の最前線』		首都大学東京都市環境学部分子応用化学研究	講談社	2010年	
	参考書	『知っておきたい有機化合物の働き』		齋藤勝裕著	ソフトバンククリエイティブ	2011年	
	参考書	『チャレンジ化学』		水谷広著	三共出版	2010年	
	参考書	『世界で一番美しい元素図鑑』		T.Gray著, 若林文高監修	創元社	2010年	
参考書	『化学環境学』		御園生誠著	裳華房	2007年		
教科書・参考書等に関する記述欄	教科書は使用しない。プリント配布。PC、DVD、ビデオなども使用する。参考書として、上記のほかに『商品から学ぶ化学の基礎』, 松田勝彦著, 化学同人(2011年); 『元素検定』, 桜井弘他著, 化学同人(2011) など						
自由記述欄	分子や原子を操るのが「化学」である。楽しみながら一緒に「化学」を学ぼう!						

科目コード	5120140	単位	1	時間数	15		
授業科目名	材料の世界 - 暮らしと材料 -	開講学期等	前期後半	時間割	火5・6		
授業科目名英字	Materials Science: The World of Materials ; Human Life and Materials						
備考	授業の形式		講義	必修・選択	選択		
	受講対象学生		全学部 1～4年				
内容的に密接に関係する授業科目	履修する際に前提とする授業科目						
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
小玉展宏	工学資源学部	教文3-204	2650	原 基	工学資源学部	工資3-413	2414
麻生節夫	工学資源学部	工資3-317	2413				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	火曜 7, 8 時限		【場所】	各教員室		
授業の目的				授業の到達目標			
今日の生活と暮らしの中に、深く入り込んでいる種々の材料と資源・環境・エネルギー問題との関連を取り上げる。特に、エネルギー変換材料、光学材料などの機能材料および鉄鋼材料などの構造材料に焦点を当て、それらの働きと応用例を講義する。 1) 資源・環境・エネルギー問題に対する材料と材料技術の役割を理解する。 2) 金属・半導体・セラミックスの一般的性質を理解する。 3) 金属・半導体・セラミックスの応用例を理解する。				1) 資源・環境・エネルギー問題に対する材料と材料技術の役割を説明できる。 2) 金属・半導体・セラミックスの一般的性質を説明できる。 3) 金属・半導体・セラミックスの合成・加工法と応用例を説明できる。			
カリキュラム上の位置付け	材料工学・材料科学を理解するための導入科目である。						
授業の概要と進行予定及び進め方	【授業の概要】 3分野の材料の基礎から応用までについて、オムニバス式で講義する。						
	【進行予定と進め方】 工学資源学部材料工学科3人の教員が各自の専門に近い内容を交代で講義する。 1. 光学材料(小玉展宏) 携帯電話や薄型テレビ(プラズマおよび液晶ディスプレイ、有機EL)、また次世代照明などに使われる発光ダイオード、蛍光体、液晶などの光学材料の機能と役割を理解する。併せて、エネルギー・環境・元素資源の問題と光学材料との関連を理解する。 1) 光学機能(発光・吸収現象)の基礎と発光ダイオードと蛍光体による発光のデモ 2) 発光材料の役割とディスプレイへの応用、エネルギー問題との関連を説明する。 2. エネルギー変換材料(原 基) 化学、原子力、光などの各種エネルギーは最も使いやすいエネルギー形態である電気エネルギーに変換されて使用されている。本講義では、いろいろなエネルギー変換において重要な役割をする材料についてその概要を講義する。 1) 我が国で最も電力供給量の多い熱機関で使用される熱エネルギー/機械エネルギー 変換材料について講義する。 2) 将来のクリーンエネルギー源として注目される太陽電池、燃料電池において重要な役割を果たしている材料について講義する。 3. 鉄鋼材料(麻生節夫) 我々の日常を支えている鉄鋼材料の基礎と応用について講義する。 1) 自動車に使われている種々の鉄鋼材料が、なぜそこに使われているかについて説明する。 2) 鉄鋼材料に不可欠な熱処理について、日本刀を例に説明する。						
授業に関連するキーワード	エネルギー	金属材料		耐熱材料			
	光学材料	鉄鋼材料		環境			
	元素資源						
成績評価の方法	達成目標についてレポート提出を求め、各達成目標の達成率を評価する。具体的には、3つの講義分野の中から出された各々の課題のうち、1題を選択して指定された期日までにレポートを提出する。成績はレポート(100%)により評価し、全ての達成目標で60%以上の評価を得た者を合格とする。なお、欠席がいずれかの講義について2回もしくは合計3回に達したものはD評価とする。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
	参考書	『発光・照明材料』		日本セラミックス協会	日刊工業新聞社	2010年	
	参考書	『鉄と鉄鋼材料がわかる本』		新日本製鉄(株)	日本実用出版社	2004年	
教科書・参考書等に関する記述欄	プリントを配布あるいはプロジェクターを使用する。機能材料を使った実際の製品を一部紹介する。						
自由記述欄							

科目コード	5120150	単位	1	時間数	15		
授業科目名	情報工学の世界 A - 現代情報技術の実際 -	開講学期等	前期前半	時間割	木7・8		
授業科目名英字	Information Technology A:Current Topics of Information Technology						
備考	授業の形式		講義	必修・選択	選択		
	受講対象学生		全学部 1～4年				
内容的に密接に関係する授業科目	特になし		履修する際に前提とする授業科目	特になし			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
責:五十嵐隆治	情報工学科	総合研究棟3F教員室	018-889-2963	玉本英夫	情報工学科	工資V-506・2774	
横山 洋之	情報工学科	工資V-507		山口邦彦	情報工学科	総合研究棟3F教員室	
橋本仁	情報工学科	総合研究棟3F教員室		高谷眞弓	情報工学科	工資V-309	
山村明弘	情報工学科	工資V-310					
オフィスアワー	【曜日及び時間】	授業時に通知する		【場所】	各教員室		
授業の目的				授業の到達目標			
現在、情報通信技術（ICT）は日常的にあらゆる分野で利用されている。その中の幾つかの課題に関する技術的な背景と活用状況を具体的に知ることで、ICTの実際を理解する。				<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 情報通信技術について説明できる。</li> <li>2) 情報通信技術が、社会においてどのように活用されているのかを説明できる。</li> <li>3) 情報通信技術と私達の身近な生活との関わりを列挙できる。</li> <li>4) 情報通信技術の具体的な長所と短所をそれぞれ列挙できる。</li> <li>5) 現状と比較し、情報通信技術の将来について自分なりの考えを説明できる。</li> </ol>			
カリキュラム上の位置付け	教養基礎教育の目標「6. 本学に所属する教員の固有の専門的力量を、教養教育にも十分に発揮できるカリキュラム体制を目指し、それによる特色と効果を創出する」と深く関わる科目。また、目的・主題別としては、「学問の方法」を重視する。						
授業の概要と進行予定及び進め方	<p>【授業の概要】</p> <p>本講義では、民芸芸能の伝承技術、XML、コンピュータの高信頼化技術、トラヒックエンジニアリング技術、デジタル信号と情報通信技術、半導体と集積回路、クラウドコンピューティングなどの情報通信技術（ICT）に関するトピックスを取り上げ、ICTがどのように活用されているのかを理解する。</p> <p>【進行予定と進め方】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ICTを活用した民芸芸能の伝承技術</li> <li>・ モーションキャプチャ・バーチャルリアリティ・人の動作の記録・保存と再現技術・舞踊動作学習支援システム</li> <li>2. XML: 電子社会を構築する技術</li> <li>・ XMLとは・XML関連技術・XML適用事例</li> <li>3. コンピュータの高信頼化技術</li> <li>・ 高信頼コンピュータの基本的考え方・フォールトトレラントシステム・LSIの高信頼化、テスト</li> <li>4. トラヒックエンジニアリング技術</li> <li>・ トラヒックとその特徴・トラヒックと通信品質・経路制御: 最短経路とトラヒック平滑化</li> <li>5. デジタル信号と情報通信技術</li> <li>・ デジタルとアナログ・信号伝送（情報の伝送）・信号の変調と復調</li> <li>6. 半導体から集積回路へ</li> <li>・ 半導体の歴史・半導体とはなにか・集積回路とはなにか</li> <li>7. クラウドコンピューティング</li> <li>・ クラウドの実際・仮想化技術・スマートグリッド</li> <li>8. まとめ・試験</li> </ol>						
授業に関連するキーワード	民芸芸能の伝承技術	電子社会	フォールトトレラントシステム				
	トラヒックエンジニアリング	デジタル信号	半導体				
	クラウドコンピューティング						
成績評価の方法	授業最終回の試験により評価する。7回の授業のうち5回以上授業に出席しない場合は単位を認めない。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】		
教科書・参考書等に関する記述欄	適宜、資料を配布する。						
自由記述欄							

科目コード	5120160	単位	2	時間数	30		
授業科目名	コンピュータの科学 A - コンピュータ科学の基礎 -	開講学期等	前期	時間割	火3・4		
授業科目名英字	Computer Science IA: Fundamentals on Computer Science						
備考	授業の形式		講義	必修・選択	選択		
	受講対象学生		全学部 1～4年				
内容的に密接に関係する授業科目	コンピュータの科学II		履修する際に前提とする授業科目	特になし			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
林 良雄	教育文化学部	教文4 - 414	018-889-2761				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	火 14:30～16:00		【場所】	教文4 - 414		
授業の目的			授業の到達目標				
コンピュータ科学の入門として、コンピュータ内部でのデータ表現および動作原理について理解する。			データのデジタル化について説明できる。 コンピュータ内部でのデータ表現が説明できる。 ブール代数の操作ができる 組み合わせ・順序論理回路について説明ができる。				
カリキュラム上の位置付け	本講義は情報処理技術者資格取得の基礎教育として、重要なコンピュータの動作に関する基礎的知識を習得させるものである。						
授業の概要と進行予定及び進め方	<p>【授業の概要】 コンピュータの動作を理解するためにはコンピュータ内部での情報の表現の理解を必要とする。本講義では特に数値のコンピュータの内部表現について説明を行う。そのあと、内部で表現されたデータを処理する回路を理解するには論理回路が必須となる。本講義ではその数学的基礎であるブール代数を習得し、それをを用いた初歩的な論理回路を紹介する。</p> <p>【進行予定と進め方】 授業概要は以下のとおりに進める。 第1回 ガイダンス 第2回 基礎知識 第3回 デジタル化について 第4～8回 データ表現について 第8～12回 ブール代数と組み合わせ論理回路について 第13～15回 順序論理回路について</p> <p>全て講義で行い、板書を中心とするが、補助的にeラーニング教材も利用する。 授業の初めには前回の内容の復習テストを行う。また「データ表現について」、「ブール代数と組み合わせ論理回路について」、「順序論理回路について」の最後には小テストを行う。 基本的には教科書に従って行う。教科書巻末の演習問題は全ておこなっておくこと。また、授業外では下記の参考書や教科書で紹介されている文献を読んでおくとう理解が進む。</p>						
授業に関連するキーワード	デジタル	ブール代数		論理回路			
	アーキテクチャ	データ表現					
成績評価の方法	<p>成績評価は復習問題の提出状況と3回の小テスト及びデジタル教材による学習を合計した点数で行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎回授業の最初に前回の授業の内容の復習テストを行い、その場で回収する。合計30点</li> <li>・ 小テストは2回以上受けるものとし、2回未満のものはDとみなす。なおテスト時に欠席したものの再試験は行わないものとする。合計60点</li> <li>・ デジタル教材による学習をどの程度行ったかにより10点</li> </ul>						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
	教科書	『計算機科学の基礎』		八村広三郎	近代科学社	1989	
	参考書	『コンピュータのしくみを理解するための10章』		馬場敬信	技術評論社	2005	
	参考書	『コンピュータ解体新書』		清水忠昭・菅田一博	サイエンス社		
教科書・参考書等に関する記述欄							
自由記述欄							

科目コード	5120170	単位	2	時間数	30		
授業科目名	コンピュータの科学 A - グラフとアルゴリズム -	開講学期等	前期	時間割	水5・6		
授業科目名英字	Computer Science IIA:Graph and Algorithm						
備考	授業の形式		必修・選択				
	受講対象学生		全学部 1～4年				
内容的に密接に関係する授業科目	コンピュータの科学		履修する際に前提とする授業科目				
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
上田晴彦	教育文化学部	4-412・2765	2765				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	水曜日 午後2時30分～午後5時		【場所】	4-412		
授業の目的				授業の到達目標			
<p>グラフ理論は、コンピュータ科学・自然科学・純粋数学・社会科学等の様々な分野での基礎的理論となっている。今後専門課程においてより高度な学問を理解する上でも、またコンピュータ科学への興味を喚起する上でも欠かすことの出来ないものである。本授業では、この魅力的なグラフ理論についての基礎事項を論述する。さらにグラフに関するアルゴリズムを学習することで、コンピュータ科学に対する理解を深める。</p>				<p>以下の2点を到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) グラフ理論の基礎事項を理解する。</li> <li>2) アルゴリズムへの応用が出来るようになる</li> </ol>			
カリキュラム上の位置付け	<p>グラフおよびアルゴリズムは、コンピュータ科学を専門とする学生だけでなく、他の分野に興味をもつ学生にも十分に役立つ重要な基礎的理論である。本講義では、今後自然科学・社会科学の専門課程に進む学生に対して、将来要求される基礎的概念を身に付けることをカリキュラム上の位置づけとする。</p>						
授業の概要と進行予定及び進め方	<p>【授業の概要】 グラフ理論とそれに関連するアルゴリズムについて、系統立てて論述する。</p> <p>【進行予定と進め方】 具体的には以下の順に講義を進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) グラフ理論の基礎 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. グラフとはなにか</li> <li>2. 木・連結性・分割</li> <li>3. 周遊・線グラフ</li> <li>4. 被覆・平面グラフ・4色定理</li> <li>5. 色分け可能性・グラフと行列</li> <li>6. グラフと群・有向グラフ</li> </ol> </li> <li>2) アルゴリズムへの応用 <ol style="list-style-type: none"> <li>7. アルゴリズムの基礎</li> <li>8. アルゴリズムとデータ構造</li> <li>9. アルゴリズムと木</li> <li>10. アルゴリズムと有向グラフ</li> <li>11. アルゴリズムと無向グラフ</li> <li>12. アルゴリズムとオイラー・ハミルトングラフ</li> </ol> </li> <li>3) まとめ <ol style="list-style-type: none"> <li>13. まとめと試験対策</li> </ol> </li> </ol>						
授業に関連するキーワード	コンピュータ科学	グラフ理論	アルゴリズム				
成績評価の方法	レポート(20%)、試験(80%) 総合60%を合格とする。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】		
教科書・参考書等に関する記述欄	オリジナルの講義冊子のファイルをa・netの「キャビネット」に置いておくので、受講希望者はあらかじめダウンロードして印刷した状態で持参すること。(「学生」フォルダ内の「授業関係資料」フォルダ内の「上田晴彦」フォルダで、対応するファイルをダウンロードしてください。)						
自由記述欄	講義冊子がないと、授業を受講する際に大きな支障となります。必ず事前にプリントアウトして持参してください。						

科目コード	5120190		単位	1	時間数		
授業科目名	資源循環と科学 - 希少元素に注目して -		開講学期等	前期後半	時間割	金5・6	
授業科目名英字	Resource circulation Society and Science-The case of rare metals						
備考			授業の形式	講義	必修・選択	選択	
			受講対象学生	全学部 1～4年			
内容的に密接に関係する授業科目			履修する際に前提とする授業科目				
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
柴山 敦	工学資源学研究科	VBL棟3F教員室2・3051		杉山 俊博	医学系研究科	医学部・6075	
菅原 勝康	工学資源学研究科	工学資源学部4号館222室・2750		石山 大三	工学資源学研究科	附属環境資源学研究センター218室	
齊藤 準	工学資源学研究科	附属環境資源学研究センター204室		吉村 哲	工学資源学研究科	附属環境資源学研究センター203室	
大川浩一	工学資源学研究科	工学資源学部2号館B209室・2385		林 滋生	工学資源学研究科	附属環境資源学研究センター307室	
オフィスアワー	【曜日及び時間】			【場所】			
授業の目的				授業の到達目標			
希少元素を中心として、資源開発、産業技術、リサイクル、環境、医療等の資源循環型社会の構築に関わる諸要素を、各科学分野の先端的研究を通して理解する。				・希少元素の科学のおよび経済的・産業的側面からの重要性を理解する。 ・希少元素の資源リサイクルと素材としての機能、役割、特徴および環境保全を理解する。			
カリキュラム上の位置付け	初年度ゼミ相当の科学技術概論であり、基礎化学・基礎物理程度の内容を基本とした技術紹介等を行う。						
授業の概要と進行予定及び進め方	<p>【授業の概要】</p> <p>希少元素(レアメタル)に注目した資源循環や素材利用などの科学技術を各講師が概論として説明する。主な講義内容は希少元素の特徴と資源リサイクル、探査、エネルギー、物理的性質、先端材料、生体影響、代替技術等に関する動向や最新技術であり、これらの項目を科学的な観点から解説する。</p> <p>【進行予定と進め方】</p> <p>(1)ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー(VBL)の概要と見学(工学資源学研究科環境物質工学専攻、柴山 教授) VBLの見学を行い、VBLで進めている「希少元素の資源リサイクルと高度素材設計」プロジェクトを説明する。</p> <p>(2)希少元素資源と経済(工学資源学研究科地球資源学専攻、大川 助教) 希少元素資源の世界的埋蔵量や分布、世界経済における重要性について講義する。</p> <p>(3)希少元素と探査(工学資源学研究科附属環境資源学研究センター、石山 教授) 希少元素を含む鉱物資源の存在状態と探査について講義する。附属鉱業博物館の見学も行う。</p> <p>(4)希少元素の分離精製技術(工学資源学研究科環境物質工学専攻、菅原 教授) 低エネルギー、低環境負荷型の希少元素分離精製技術について概説する。</p> <p>(5)希少元素の物理的性質とその応用(工学資源学研究科附属環境資源学研究センター、齊藤 教授) 希少元素の物理的性質の発現機構とその工学応用を講義する。</p> <p>(6)先端材料と希少元素(工学資源学研究科附属環境資源学研究センター、吉村 准教授) 希少元素の微量添加によって得られる各種先端工業材料を概観する。</p> <p>(7)希少元素の生体影響(医学系研究科、杉山 教授) 希少元素の生体影響の研究の現状を講義する。</p> <p>(8)希少元素の代替技術(工学資源学研究科附属環境資源学研究センター、林 教授) 希少元素を、他のありふれた元素で置き換える技術について解説する。</p> <p>なお、授業の詳細については初回授業時に説明する。</p>						
授業に関連するキーワード	希少元素	資源探査	分離精製				
	資源リサイクル	先端材料	生体影響				
成績評価の方法	毎回の講義時に課題を課し、総合点(100%)のうち60%以上を合格とする。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
	特になし						
教科書・参考書等に関する記述欄							
自由記述欄							

科目コード	5130040	単位	1	時間数	15		
授業科目名	医学と健康 A - 健康と疾患の基礎知識 -	開講学期等	前期前半	時間割	火7・8		
授業科目名英字	Medical Science and Health IA:Health and Disease						
備考	授業の形式		講義	必修・選択	選択		
	受講対象学生		全学部 1～4年				
内容的に密接に関係する授業科目	なし	履修する際に前提とする授業科目	なし				
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
田中正光	医学部		6077	今井由美子	医学部		6065
石井 聡	医学部		6089				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	月曜 7・8 時限		【場所】	医学部基礎棟4階分子生化学講座研究室		
授業の目的				授業の到達目標			
健康と医学についての基礎的なメカニズムを学ぶ。				(1) 腫瘍と正常の違いの基礎知識について理解する。 (2) 薬理学の基礎知識について理解する。 (3) 健康の維持と疾患の発症との両方に関係する免疫について理解する。			
カリキュラム上の位置付け	教養基礎教育の目標「(6)本学に所属する教官の固有の専門的力量を、教養教育にも充分に発揮できるカリキュラム体制を目指し、それによる特色と効果を創出する」と深くかかわる科目、また、目的・主題別としては「学問の進展」を重視する。						
授業の概要と進行予定及び進め方	<b>【授業の概要】</b> 薬理、免疫、腫瘍に関する基礎知識・用語の解説などを講義し、専門誌の内容が理解できるようにする。 <b>【進行予定と進め方】</b> 予定 4月12日 教養の薬理学 (担当：今井由美子) 4月19日 教養の薬理学 (担当：今井由美子) 4月26日 免疫学入門 (担当：石井 聡) 5月10日 免疫学入門 (担当：石井 聡) 5月17日 腫瘍学入門 (担当：田中正光) 5月24日 腫瘍学入門 (担当：田中正光) 5月31日 教養の薬理学 (担当：今井由美子) 6月 7日 教養の薬理学 (担当：今井由美子)						
授業に関連するキーワード	腫瘍	健康	薬理	免疫			
成績評価の方法	出席状況(2/3以上)とレポート(提出必須)による評価。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
教科書・参考書等に関する記述欄	特に指定しない						
自由記述欄							

科目コード	5130050		単位	1		時間数	15																									
授業科目名	医学と健康 A - 子供の発達と健康 -		開講学期等	前期後半		時間割	火5・6																									
授業科目名英字	Medical Science and Health II A/B: Development and Health of Childhood																															
備考	授業の形式		講義		必修・選択		選択																									
	受講対象学生		全学部 1～4年																													
内容的に密接に関係する授業科目	履修する際に前提とする授業科目																															
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】																									
高橋 勉	医学部・小児科		018-884-6159	新井浩和	医学部・小児科		018-884-6159																									
矢野道広	医学部・小児科		018-884-6159	高橋郁子	医学部・小児科		018-884-6159																									
田村啓成	医学部・小児科		018-884-6159	吉野裕顕	医学部・小児外科		018-884-6143																									
大野忠行	大野小児科医院		018-832-5301	小松真紀	秋田組合総合病院・小児		018-880-3000																									
オフィスアワー	【曜日及び時間】	月曜～金曜 13:00～17:00		【場所】	医学部小児科医局																											
授業の目的				授業の到達目標																												
1) 小児の正常な身体的・心理的成長発達を理解できるようになる。 2) 小児の成長発達を促すためにどんなことが必要なのかを理解できるようになる。				1) 小児の正常な身体的・心理的成長発達過程について、基本的な知識を説明できるようになる。 2) 小児の成長発達を促す具体的な方法を説明できるようになる。																												
カリキュラム上の位置付け	子どもの発達について、様々な観点から理解することを目的とする。																															
授業の概要と進行予定及び進め方	<p>【授業の概要】 小児は決して「小さな成人」ではなく、出生前から出生後、そして成人に至るまでのそれぞれの段階で大きな特徴が存在する。本講座では、各小児期の身体的、精神的な特徴を概説し、特徴的な疾患を含めて小児期を立体的に理解出来るよう説明する。</p> <p>【進行予定と進め方】</p> <table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>総論</td> <td>高橋 勉</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>胎児から新生児</td> <td>新井浩和</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>乳児期</td> <td>田村啓成</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>幼児期</td> <td>小松真紀</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>学童期</td> <td>大野忠行</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>思春期</td> <td>高橋郁子</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>子どもの健康と外科</td> <td>吉野裕顕</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>小児の成長と小児がん</td> <td>矢野道広</td> </tr> </table>								第1回	総論	高橋 勉	第2回	胎児から新生児	新井浩和	第3回	乳児期	田村啓成	第4回	幼児期	小松真紀	第5回	学童期	大野忠行	第6回	思春期	高橋郁子	第7回	子どもの健康と外科	吉野裕顕	第8回	小児の成長と小児がん	矢野道広
第1回	総論	高橋 勉																														
第2回	胎児から新生児	新井浩和																														
第3回	乳児期	田村啓成																														
第4回	幼児期	小松真紀																														
第5回	学童期	大野忠行																														
第6回	思春期	高橋郁子																														
第7回	子どもの健康と外科	吉野裕顕																														
第8回	小児の成長と小児がん	矢野道広																														
授業に関連するキーワード	小児	発達																														
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 欠席3回の時点で評価はDとする。</li> <li>・ 8回の講義のうち、特に興味を持った講義1つについてレポートを提出すること。その内容は以下のようにする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>1) 講義内容に関して、 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ どんなことが分かったか</li> <li>・ それに関して、現代の子どもが社会的により健康的であるためには、今後どんな関わり・取り組みが必要と考えるかを記載してください。</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>																															
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】																											
教科書・参考書等に関する記述欄	・ 第1回の講義時に、この講義のシラバスを配布予定																															
自由記述欄																																

科目コード	5130060	単位	2	時間数	30		
授業科目名	医学と健康 A - 加齢と保健医療 -	開講学期等	前期	時間割	木3・4		
授業科目名英字	Medical Science and Health IIIA:aging and health care						
備考	授業の形式		講義	必修・選択	選択		
	受講対象学生		全学部 1～4年				
内容的に密接に関係する授業科目	履修する際に前提とする授業科目						
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
浅沼 義博	医学系研究科保健学専攻	C-112・6524	6524	ほか看護学専攻教			
オフィスアワー	【曜日及び時間】	適宜担当教員と連絡		【場所】	適宜担当教員と連絡		
授業の目的				授業の到達目標			
1) 加齢に伴う身体的精神的变化を理解する。 2) 高齢期における個人の生活の質的向上と保健医療との関わりを理解する。				1) 加齢に応じた健康保持法, 医療への関わり, 医療側の対応が理解できる。 2) 加齢と保健医療の現状を理解し, 高齢者へのいたわりの心をもてる。 3) 加齢と保健医療について, 具体的に問題提起し考察することができる。			
カリキュラム上の位置付け	加齢と保健医療を理解するための基礎科目である。						
授業の概要と進行予定及び進め方	【授業の概要】 加齢に伴う身体的精神的变化を理解し, 高齢者の生活の質的向上と保健医療との関わりを探究する。						
	【進行予定と進め方】			講義の内容			
	担当			4/12/12	高齢社会における保健医療福祉の課題		
	1.熊澤 由美子: 地域・老年看護学講座			4/19	加齢と障害		
	2.熊澤 由美子: 地域・老年看護学講座			4/26	加齢と身体機能変化(1)		
	3.百田 芳春: 基礎看護学講座			5/10	加齢と身体機能変化(2)		
	4.百田 芳春: 基礎看護学講座			5/17	加齢と身体機能変化(3)		
	5.百田 芳春: 基礎看護学講座			5/24	高齢者の心のケア(1)		
	6.鈴木 圭子: 地域・老年看護学講座			5/31	高齢者の心のケア(2)		
	7.鈴木 圭子: 地域・老年看護学講座			6/7	高齢者と家族(1)		
	8.長岡 真希子: 地域・老年看護学講座			6/14	高齢者と家族(2)		
	9.長岡 真希子: 地域・老年看護学講座			6/21	高齢者ケア(1)		
	10.煙山 晶子: 地域・老年看護学講座			6/28	高齢者ケア(2)		
	11.煙山 晶子: 地域・老年看護学講座			7/5	加齢と栄養(1)		
	12.水沼 秀夫: 基礎看護学講座			7/12	加齢と栄養(2)		
	13.水沼 秀夫: 基礎看護学講座			7/19	加齢と栄養(3)		
	14.水沼 秀夫: 基礎看護学講座			7/26	加齢と手術		
	15.浅沼 義博: 臨床看護学講座			8/2	記述式テスト		
	16.テスト						
授業に関連するキーワード	加齢	保健医療	健康				
	ケア	栄養	障害				
	身体機能変化						
成績評価の方法	講義出席状況(2/3以上)を満した上で, 学習意欲・態度(10%), テスト(90%)						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】		
教科書・参考書等に関する記述欄	特に指定しない。						
自由記述欄							

科目コード	5130070	単位	2	時間数	30																																																																	
授業科目名	医学と健康 - 障害と保健医療 -	開講学期等	前期	時間割	月7・8																																																																	
授業科目名英字	Medical Science and Health V : disability and health care																																																																					
備考	授業の形式		講義	必修・選択	選択																																																																	
	受講対象学生		全学部 1～4年																																																																			
内容的に密接に関係する授業科目	履修する際に前提とする授業科目																																																																					
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】																																																															
進藤伸一	保健学科	C-306	6526	ほか保健学科教員																																																																		
オフィスアワー	【曜日及び時間】	月曜9・10時限		【場所】	保健学科C-306																																																																	
授業の目的				授業の到達目標																																																																		
1)人間の生活機能と障害について理解する。 2)身体的・精神的障害のある人への援助のあり方を理解する。				1)人の生活機能とその障害について説明できる。 2)人を取り巻く環境因子(制度・用具・態度など)について説明できる。 3)人を援助するための対人技能や環境整備について説明できる。																																																																		
カリキュラム上の位置付け	この科目は障害を理解しようとする学生一般に向けた基礎科目である。																																																																					
授業の概要と進行予定及び進め方	【授業の概要】																																																																					
	<p>【進行予定と進め方】</p> <table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>4 / 9</td> <td>担当：進藤伸一</td> <td>「障害とは何か - 国際生活機能分類の考え方」</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>4 / 16</td> <td>担当：佐々木誠</td> <td>「身体障害分類と分類別の障害の様相」</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>4 / 23</td> <td>担当：佐竹将宏</td> <td>「障害と医療技術」</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>5 / 7</td> <td>担当：工藤俊輔</td> <td>「障害者の自立支援と環境整備 - バリアフリーと住宅改造 - 」</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>5 / 14</td> <td>担当：上村佐知子</td> <td>「障害者に対するコミュニケーション技術」</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>5 / 21</td> <td>担当：塩谷隆信</td> <td>「病気と障害」</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>5 / 28</td> <td>担当：岡田恭司</td> <td>「骨粗鬆症と転倒予防」</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>6 / 4</td> <td>担当：若狭正彦</td> <td>「スポーツと障害」</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>6 / 11</td> <td>担当：石川隆志</td> <td>「障害と作業活動」</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>6 / 18</td> <td>担当：新山喜嗣</td> <td>「こころの障害と保健医療」</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>6 / 25</td> <td>担当：石井奈智子</td> <td>「こころの障害とリハビリテーション」</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>7 / 2</td> <td>担当：高橋恵一</td> <td>「発達障害に対するリハビリテーション」</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>7 / 9</td> <td>担当：津軽谷恵</td> <td>「障害と日常生活活動」</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>7 / 23</td> <td>担当：湯浅孝男</td> <td>「コミュニケーション障害」</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>7 / 30</td> <td>担当：大友和夫</td> <td>「神経系と障害」</td> </tr> <tr> <td>第16回</td> <td>8 / 6</td> <td>担当：進藤伸一</td> <td>試験</td> </tr> </table>							第1回	4 / 9	担当：進藤伸一	「障害とは何か - 国際生活機能分類の考え方」	第2回	4 / 16	担当：佐々木誠	「身体障害分類と分類別の障害の様相」	第3回	4 / 23	担当：佐竹将宏	「障害と医療技術」	第4回	5 / 7	担当：工藤俊輔	「障害者の自立支援と環境整備 - バリアフリーと住宅改造 - 」	第5回	5 / 14	担当：上村佐知子	「障害者に対するコミュニケーション技術」	第6回	5 / 21	担当：塩谷隆信	「病気と障害」	第7回	5 / 28	担当：岡田恭司	「骨粗鬆症と転倒予防」	第8回	6 / 4	担当：若狭正彦	「スポーツと障害」	第9回	6 / 11	担当：石川隆志	「障害と作業活動」	第10回	6 / 18	担当：新山喜嗣	「こころの障害と保健医療」	第11回	6 / 25	担当：石井奈智子	「こころの障害とリハビリテーション」	第12回	7 / 2	担当：高橋恵一	「発達障害に対するリハビリテーション」	第13回	7 / 9	担当：津軽谷恵	「障害と日常生活活動」	第14回	7 / 23	担当：湯浅孝男	「コミュニケーション障害」	第15回	7 / 30	担当：大友和夫	「神経系と障害」	第16回	8 / 6	担当：進藤伸一
第1回	4 / 9	担当：進藤伸一	「障害とは何か - 国際生活機能分類の考え方」																																																																			
第2回	4 / 16	担当：佐々木誠	「身体障害分類と分類別の障害の様相」																																																																			
第3回	4 / 23	担当：佐竹将宏	「障害と医療技術」																																																																			
第4回	5 / 7	担当：工藤俊輔	「障害者の自立支援と環境整備 - バリアフリーと住宅改造 - 」																																																																			
第5回	5 / 14	担当：上村佐知子	「障害者に対するコミュニケーション技術」																																																																			
第6回	5 / 21	担当：塩谷隆信	「病気と障害」																																																																			
第7回	5 / 28	担当：岡田恭司	「骨粗鬆症と転倒予防」																																																																			
第8回	6 / 4	担当：若狭正彦	「スポーツと障害」																																																																			
第9回	6 / 11	担当：石川隆志	「障害と作業活動」																																																																			
第10回	6 / 18	担当：新山喜嗣	「こころの障害と保健医療」																																																																			
第11回	6 / 25	担当：石井奈智子	「こころの障害とリハビリテーション」																																																																			
第12回	7 / 2	担当：高橋恵一	「発達障害に対するリハビリテーション」																																																																			
第13回	7 / 9	担当：津軽谷恵	「障害と日常生活活動」																																																																			
第14回	7 / 23	担当：湯浅孝男	「コミュニケーション障害」																																																																			
第15回	7 / 30	担当：大友和夫	「神経系と障害」																																																																			
第16回	8 / 6	担当：進藤伸一	試験																																																																			
授業に関連するキーワード	障害	リハビリテーション	保健医療																																																																			
成績評価の方法	試験(90%)、学習態度(10%)。総合60%以上を合格とする。 欠席6回の時点で評価はDとする。																																																																					
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】																																																																	
	特に使用しない。資料を随時配付する。																																																																					
教科書・参考書等に関する記述欄																																																																						
自由記述欄																																																																						

科目コード	5130100	単位	2	時間数	30		
授業科目名	大学生と健康 A - 上手に生きる為の基礎知識 -	開講学期等	前期	時間割	木7・8		
授業科目名英字	Student and Health A:A primer of mental and physi						
備考	授業の形式		講義	必修・選択	選択		
	受講対象学生		全学部 1～4年				
内容的に密接に関係する授業科目	履修する際に前提とする授業科目						
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
苗村育郎	保健管理センター	2287	2287	小林政雄	保健管理センター	2285	
円山啓司	非常勤講師	2286		佐藤 朗	非常勤講師	2286	
草薙宏明	非常勤講師	2286		後藤優子	非常勤講師	2286	
武村尊生	非常勤講師	2286					
オフィスアワー	【曜日及び時間】	毎日 9:00 - 17:00		【場所】	保健管理センター		
授業の目的				授業の到達目標			
複雑な現代社会の生活では心身共に成長期である青年としては、社会環境から多くのストレスに晒され日常生活で健康に生き抜く知恵が必要である。増加している成人病（癌、心臓病、脳卒中）の予防は青年期から徹底化する必要がある。この科目は青年が直面している心からたの健康状況を認識し、将来の生活の支えとなることを目的として行う。				健康で創造的な生活を送るためのもっとも基本的な知識を心と体の両面において身につけることを目指す。身体面では各種の生活習慣病や、感染症、不眠症などの予防法を学び、心理面では性格、人間関係、神経症や鬱病から信仰の問題に至るまで幅広く取り上げる。			
カリキュラム上の位置付け	心身の健康と社会生活のもっとも基礎的な部分を学ぶ。						
授業の概要と進行予定及び進め方	<p>【授業の概要】</p> <p>1) 人類はこれまでに経験したことのない未曾有の高齢化社会を経験している。これはたんに成人病の増加ということに留まらず、社会の各部署で個人がどう対処していくかという視点を明確にしておかないと、将来の人類の生存をも脅かしかねない。成人病や癌や痴呆の予防方法、エイズをはじめとする感染症などの基礎知識などについては青年期までに十分な理解を持っておくことが重要であり、日常生活の中での対処の仕方を学んでおく必要がある。</p> <p>2) また、高度情報化社会への移行に伴い、経済・社会情勢が急速に変貌している。このストレスにたえて、人生を健康に生き抜くためには、ますます多くの知恵や知識が必要となってきている。この講義では、深層心理や人格・性格・鬱病や自殺、宗教やカルトの問題なども取り上げて解説する。</p> <p>3) 食事、睡眠、性欲、妊娠、出産、外傷や救急処置など、生活上の基本的な事柄についても、時間の許す限り専門家がわかりやすく実践的な知恵と知識を提供するように配慮している。</p> <p>4) これらを担当する教官は、内科学、精神医学、婦人科学、救急医学、心理学、宗教学などの専門家であり、各方面からの健康の守り方について、スライドやビデオなども用いて、具体的に講義する。</p> <p>【進行予定と進め方】</p> <p>スライドとレジメのプリントはほぼ毎回使用する。授業に入りきらない課題も多いため、ほぼ1.5ヵ月に1本の割合でレポート提出を課する。（興味を持って調べて勉強することの楽しさを感じる学生は多い。）レポートは1本ずつ評価して、テスト成績に加点する。</p>						
授業に関連するキーワード	心と体の健康保健		成人病・鬱病・痴呆		睡眠障害と心身の調子		
	生活構造と人生・宗教		飲酒と喫煙の害と発癌		エイズ・妊娠・出産		
	救急措置・海外渡航						
成績評価の方法	期末試験の結果と出席状況（毎回の質疑応答）、及びレポートを統合して行う。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
		『学生と健康』		国立大学法人保健管理施設協議会	南江堂	2011年	
教科書・参考書等に関する記述欄							
自由記述欄							

科目コード	5130110	単位	1	時間数	15		
授業科目名	生命と健康 A - 現代日本に見られる生活習慣病 -	開講学期等	前期前半	時間割	火9・10		
授業科目名英字	Life and Health IA:Lifestyle-related diseases in						
備考	授業の形式		講義	必修・選択	選択		
	受講対象学生		全学部 1～4年				
内容的に密接に関係する授業科目	特になし		履修する際に前提とする授業科目	特になし			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
清水徹男	医学部精神科学講座	884-6122	884-6122	齊藤英知	医学部整形外科講座	884-6148	
吉富健志	医学部眼科学講座	884-6167		橋本 学	医学部放射線医学講座	884-6302	
寺田幸弘	医学部産婦人科学講座	884-6160		柴田浩行	医学部臨床腫瘍学講座	884-6262	
オフィスアワー	【曜日及び時間】	月曜日、火曜日、水曜日の17:00-20:		【場所】	臨床腫瘍学講座教授室		
授業の目的				授業の到達目標			
この講義の目的は、健康の保持・増進を図るために重要なライフスタイルと健康についての基礎的な知識を習得し、自らが健康的な生活習慣を身につけるとともに、その知識を卒業後の社会生活のなかで活用できるようにする。また、現在、国民の死亡原因の第一位を占めるがんの診断、治療の方法を知り、がんを理解し、予防に努める。さらに、少子高齢化の時代を迎えた日本社会の安定的な未来のために出産の重要性を理解する。				1)生活習慣病やがんの概念を理解する。 2)食事、睡眠、スポーツ、嗜好品、ストレスなどが健康に与える影響について説明できる。 3)視力維持の重要性を説明できる。 4)健康な社会生活を送るためのライフスタイルの問題点を考察できる。 5)出産の重要性を理解する。			
カリキュラム上の位置付け	現代社会のあり方と健康との関係に興味を持つすべての学生を対象とする。予備知識は必要としない。秋田高校の生徒にも公開される。						
授業の概要と進行予定及び進め方	<b>【授業の概要】</b> 高校、大学と成人への過程を進む中で自身の健康だけでなく、他者の健康や生命にも心を配ることができるように「生命と健康」について学ぶ。 <b>【進行予定と進め方】</b> 4月10日 副題：日本人のがん 担当 柴田浩行（臨床腫瘍学） 日本人に多いがんの成り立ちと治療方法 4月17日 副題：現代社会と睡眠 担当 清水徹男（精神医学） 現代人は睡眠を切りつめて生活している。その健康に与える影響は？諸君の睡眠・覚醒習慣について問いながら解説する。 4月24日 糖尿病性網膜症 担当 吉富健志（眼科学） 重大な失明原因、生活習慣病対策を若いときから考えよう 5月08日 副題：放射線診断 担当 橋本 学（放射線医学） 役に立つ放射線診療の話 5月15日 副題：放射線治療 担当 橋本 学（放射線医学） 放射線とノーベル賞 5月22日 副題：ヒト命の誕生を見守る産婦人科の仕事 担当 寺田幸弘（産婦人科学） 人類の存続に必要な不可欠な出産、ヒトの命の誕生に関して学び命の重さを理解する。 5月29日 副題：スポーツ傷害 担当 齊藤英知（整形外科） 近年のスポーツ熱に伴い、スポーツに関連した傷害の頻度も増加している。スポーツとの関連、頻度について概説し、予防に役立てたい。						
授業に関連するキーワード	生活習慣	ライフスタイル		食事・睡眠・スポーツ			
	ストレス	がん		視力			
	出産						
成績評価の方法	毎回のレポート提出、または出席状況を元に評価する。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
	必要に応じて授業の際に関連図書を紹介する。						
教科書・参考書等に関する記述欄							
自由記述欄							

科目コード	5130120	単位	1	時間数	15		
授業科目名	生命と健康 - 環境安全学 -	開講学期等	前期前半	時間割	水1・2		
授業科目名英字	Life and Health II: Environmental Safety						
備考	授業の形式		講義	必修・選択	選択		
	受講対象学生		全学部 1～4年				
内容的に密接に関係する授業科目	環境関連専門科		履修する際に前提とする授業科目	特になし			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
村田勝敬	医学部	基医3F・6085	6085	中田真一	工学資源学部	工4-210・2437	
林 滋生	工学資源学部	研究センター・2758		岩田吉弘	教育文化学部	教3-218・2622	
石井範子	医学部	医B-205・6515		武藤 一	環境安全センター	医学部・6192	
オフィスアワー	【曜日及び時間】	各教員のオフィスアワー		【場所】	各教員室		
授業の目的				授業の到達目標			
<p>科学技術の発達は人類に多大な利益をもたらすが、一方で様々な環境問題の発生や開発された製品や技術を使用する際の安全性のリスクが生じる。今日、環境や安全に関わる問題を無視して健全で快適な社会生活・学園生活を営むことはできない。この講義では、環境と安全性に関する基礎的な知識を習得するとともに、勉学や研究過程でその知識を実践できる能力を養うことを目的とする。</p>				<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 環境安全学とは何か概説できる</li> <li>2. 環境中のリスクおよびハザードとは何か説明できる</li> <li>3. 環境評価、リスクコミュニケーション、環境マネジメントシステムについて説明できる</li> <li>4. 実験室における化学物質の安全取扱いについて説明できる</li> <li>5. 非化学系実験室における事故防止に関わる環境管理について概説できる</li> <li>6. 医療事象（抗がん剤、感染症）に関わる安全取扱いについて説明できる</li> <li>7. 環境に由来する疾病について概説できる</li> </ol>			
カリキュラム上の位置付け	専門課程での環境関係の講義を聴講するに必要な基本的知識および環境安全の基本的視点を提示する						
授業の概要と進行予定及び進め方	<p>【授業の概要】 環境リスクとは何か、その所在を説明するとともに、環境リスクから身を守るために必要な知識、技能、制度を解説する。</p> <p>【進行予定と進め方】 第1回（4月13日）「環境安全学と環境安全センターの役割」（村田勝敬・武藤 一） 環境安全の意義、および人と環境の関係を概説するとともに、環境安全センターの役割について講義する 第2回（4月20日）「環境安全の考え方と環境マネジメント」（中田真一） リスク、ハザード、環境評価、リスクコミュニケーション、環境マネジメントシステムなどについて身の回りの例を挙げて解説する 第3回（4月27日）「非化学系の実験室における環境・安全管理」（林 滋生） 電気機器、工作機械を用いる実験室における事故防止のための環境管理を講義する 第4回（5月11日）「医療の職場における危険因子と安全管理」（石井範子） 医療職場における抗がん剤などの危険因子の取扱いを含む安全管理について講義する 第5回（5月18日）「実験室での化学物質の安全取扱い」（岩田吉弘） 実験室の安全確保の概要と、化学物質の性質に対応した安全取扱いについて講義する 第6回（5月25日）「環境汚染と健康影響」（村田勝敬） 環境有害因子による健康障害について講義する 第7回（6月1日）「環境安全センターの見学」（武藤 一・村田勝敬） 第8回（6月8日）「環境安全センターの見学」（武藤 一・村田勝敬） 第7ないし8回のいずれかの見学会に参加してもらい、環境安全センターの実態を観察する</p>						
授業に関連するキーワード	環境安全センター		環境マネジメント		環境汚染		
	リスクとハザード		リスクコミュニケーション		化学物質と安全		
	医薬品安全取扱い						
成績評価の方法	各回に課した演習またはレポートの平均点で60点以上を合格とする。 なお、「環境安全センターの見学」をしなかった者は自動的に不合格となる。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
	特に指定はない。各教員が推薦する参考書。						
教科書・参考書等に関する記述欄							
自由記述欄							



科目コード	5140030		単位	2	時間数	30	
授業科目名	社会と地域A - 都市社会学の基礎 -		開講学期等	前期	時間割	火3・4	
授業科目名英字	Society and Community A: Introduction to the Urban Sociology						
備考			授業の形式	講義	必修・選択	選択	
			受講対象学生	全学部 1～4年			
内容的に密接に関係する授業科目	(「教養基礎教育」では特になし)		履修する際に前提とする授業科目	(特になし)			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
和泉 浩	教育文化学部	教育文化学部3号館322	018-889-2649			e-mail: izumi@ed.akita-	
オフィスアワー	【曜日及び時間】	火曜昼休みおよび研究室在室時		【場所】	教育文化学部3号館322		
授業の目的				授業の到達目標			
現代における地域と社会の諸問題・諸現象を社会的視点からとらるために、社会学の考え方、特に都市社会学の基本的な理論と今日の理論展開について学ぶ。				1. 社会学とは、どのような学問なのか理解する。 2. 社会学の基本的な考え方を理解する。 2. 都市社会学のこれまでの基礎的な理論と理論潮流および「空間論的転回」以降の社会学と地理学の理論状況を理解する。			
カリキュラム上の位置付け	都市社会学、社会学一般の基礎となる授業で、特に他の授業の履修を前提にするものではありません。ただし、さまざまな理論を取りあげるので、抽象的で難しい内容も含まれます。						
授業の概要と進行予定及び進め方	<p>【授業の概要】</p> <p>授業の前半では社会学の基本的な考え方、社会学が誕生した社会的背景について説明し、後半に都市社会学の基本的な考え方、こんにちの都市研究について説明していきます。講義形式の授業ですが、教科書を使用せず、また資料も配布せず、基本的に黒板に書きながら説明していくため、板書の量はかなり多いです。</p> <p>【進行予定と進め方】</p> <p>授業予定（以下の各講での内容は、授業の進み具合などにより変更します）。</p> <p>第1講 授業についての説明  第2講 現代社会と社会学  第3講 啓蒙主義、近代科学と社会学  第4講 国民国家の形成と社会科学  第5講 産業革命と都市化  第6講 消費社会と都市  第7講 都市衛生と近代都市、都市と交通  第8講 国際化、グローバル化と都市  第9講 都市とモダニズムとポストモダニズム  第10講 都市とユニバーサルデザイン  第11講 都市社会学の主要な理論の潮流  第12講 ジンメルの都市論  第13講 シカゴ学派の都市社会学  第14講 「空間論的転回」以降の社会学と地理学1  第15講 「空間論的転回」以降の社会学と地理学2</p>						
授業に関連するキーワード	社会学	都市		社会理論			
	空間論的転回	国家		グローバル化			
	地域	消費社会					
成績評価の方法	<p>授業に関連する内容について的小テスト（複数回の場合あり）とレポートで成績を評価します。</p> <p>・小テスト（40点）：授業内容について理解しているかの確認  ・レポート（60点）：授業の内容をふまえ、社会学の視点を理解し、自分の議論を展開できるかをみる課題を出します。  小テストおよびレポートの課題については授業内でのみ説明を行い、それ以外、掲示や、欠席した場合の個人的な問い合わせに対する説明などは行いません。授業を欠席する場合は、欠席届けを提出してください。レポートは締め切り厳守で、締め切り日「時」をすぎたレポートは評価の対象外にします。またほぼ同一内容のレポートがあった場合、またネットや本の内容をそのまま写したと判明したレポートは、そのすべてのものをDに</p>						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
	参考書	『都市空間の地理学』		加藤政洋・大城直樹編著	ミネルヴァ書房	2006	
	参考書	『地図の想像力』		若林幹夫	講談社選書メチエ	1995	
	参考書	『鉄道旅行の歴史』		シヴェルブシュ	法政大学出版局	1982	
	参考書	『ジンメル・エッセー集』		ジンメル	平凡社ライブラリー	1999	
参考書	『Sociology, 6th edition』		Anthony Giddens	Polity Press	2009		
教科書・参考書等に関する記述欄	教科書と参考文献（和書および英語の文献）は、授業の内容に関連するものを、そのつど各回の授業のなかで指示します。教科書、参考書を、あらかじめ購入する必要はありません。						
自由記述欄	授業に関連する内容で、取り上げて欲しいテーマがあれば、直接あるいはメール等でお知らせください。対応可能なものについては、授業で取り上げます。						

科目コード	5140040	単位	2	時間数			
授業科目名	地理と地誌 - 地誌学入門 -	開講学期等	前期	時間割	金3・4		
授業科目名英字	Regional Geography I: Introduction to Regional Geography						
備考	小テスト4回以上適宜。教室の関係で受講学生を250名以内に制限する。	授業の形式	講義・実習	必修・選択	選択		
		受講対象学生	全学部 1～4年				
内容的に密接に関係する授業科目	自然地理学入門、自然地理学概論、人文地理学入門、人文地理学概論、地誌学概論	履修する際に前提とする授業科目					
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
篠原 秀一	教育文化・文化環境	教育文化3-335	018-889-2663				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	平日午後随時		【場所】	教育文化3号館335研究室		
授業の目的				授業の到達目標			
1) 地図、とくに地形図に親しむ。 2) 地理写真あるいは地誌に親しむ。 3) 地誌および地誌学の基本を学ぶ。				1) 地誌の意味と役割を簡単ながら説明できる。 2) 様々な地図、特に地形図から地誌の基本情報を解読できる。 3) 様々な地理写真の地誌的内容を簡単ながら説明できる。			
カリキュラム上の位置付け	地誌学・人文地理学・自然地理学の地理学全般にかかわる導入授業の1つでもあり、「地誌学概論」へと続くものである。						
授業の概要と進行予定及び進め方	<p>【授業の概要】 様々な地図と地理写真を題材として、地誌学の基本的な知識、地域のとらえ方を習得する。配布プリントと板書を中心とし、地図・地理写真・地誌の現物も回覧して講義する。作業学習および質疑応答の時間も含む。12色鉛筆が必要となる。2万5千分の1地形図1枚(270円)の購入を求めることもある。</p> <p>【進行予定と進め方】 講義内容は以下の通りだが、3回目以降の授業から、地形図の読解に関する作業実習を毎回最後の30分ほどで実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 多種多様な地図 1) 地誌と地図のある生活</li> <li>2. 多種多様な地図 2) 地図の定義と種類・分類 (1) 地図の定義</li> <li>3. 多種多様な地図 2) 地図の定義と種類・分類 (2) 地図の種類と分類</li> <li>4. 多種多様な地図 3) 地図の構成と作成</li> <li>5. 地図の整備・図式・活用 1) 地図の整備 (1) 地図の歴史</li> <li>6. 地図の整備・図式・活用 1) 地図の整備 (2) 近代的な地形図の整備</li> <li>7. 地図の整備・図式・活用 2) 地形図の図式 (1) 地形図の整飾</li> <li>8. 地図の整備・図式・活用 2) 地形図の図式 (2) 地形図の点・線記号</li> <li>9. 地図の整備・図式・活用 2) 地形図の図式 (3) 地形図の点・面表現</li> <li>10. 地図の整備・図式・活用 3) 地図の活用 (1) 地図の利用選択</li> <li>11. 地図の整備・図式・活用 3) 地図の活用 (2) 地形図の基本的読図</li> <li>12. 地図の整備・図式・活用 3) 地図の活用 (3) 地形図の総合的読図</li> <li>13. 地理写真と写真地誌 1) 地理写真とは</li> <li>14. 地理写真と写真地誌 2) 地理写真を読む</li> <li>15. 地理写真と写真地誌 3) 写真地誌</li> <li>16. 期末試験・レポート提出</li> </ol>						
授業に関連するキーワード	地図	地形図	読図				
	地理写真	地誌					
成績評価の方法	授業中の質疑応答と出席状況をふまえ、筆記試験(60%)、レポート(40%)により総合的に評価する。原則として3回以上の欠席を認めない。総合的に評価して100点満点で60点以上を合格(「C」以上の評価)とする。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
	教科書	『「地形図の手引き(五訂版)」』		日本地図センター	日本地図センター	2005年	
教科書・参考書等に関する記述欄	参考書は授業時に随時紹介する。						
自由記述欄							

科目コード	5140060	単位	2	時間数	30		
授業科目名	地理と地誌 - 自然地理学入門 -	開講学期等	前期	時間割	火3・4		
授業科目名英字	Regional Geography II: Introducing Physical Geography						
備考	授業の形式		講義	必修・選択	選択		
	受講対象学生		全学部 1～4年				
内容的に密接に関係する授業科目	地理と地誌I - 地誌学入門 -		履修する際に前提とする授業科目				
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
林 武司	教育文化・文化環境講座	教文3-333	018-889-2664				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	火曜日5・6時限		【場所】	教育文化学部3号館333室		
授業の目的				授業の到達目標			
<p>自然地理学は、人間の主たる活動の場である地球表層を対象として、空間（ローカル～グローバルスケール）を構成する様々な自然・人為要素の特性や関係性を明らかにしていく総合的・学際的な学問領域である。本授業では、地球表層の自然環境の成り立ちや相互関係、人間活動との関わり（災害や環境問題、資源・エネルギー問題など）について基礎的な知識を習得することで、地域社会とグローバル社会の関係性を理解することを目的とする。</p>				<p>自然環境に関する基礎的な知識を学ぶことで、  ・様々な環境問題や資源・エネルギー問題の本質（何が問題なのか）を考えられるようになる。  ・環境リテラシーの基礎を身につけ、科学的・社会的な根拠に基づいた判断基準を持てる。  ・環境倫理・環境正義に関する自分の意見を持てるようになる。</p>			
カリキュラム上の位置付け	地域社会とグローバル社会の関連性を自然地理学の観点から学習する。						
授業の概要と進行予定及び進め方	<p>【授業の概要】  本授業では、地球表層を地圏、気圏、水圏の3つの領域に分け、それぞれの領域について、自然環境の成り立ちや仕組み、人間活動に伴う変化について学習する。</p> <p>【進行予定と進め方】  1. 導入：大学で自然地理学を学ぶことの意味を確認する（第1回）  2. 地球の大きさと形状（第2回）  ・人間の活動基盤であり最大の資源である地球の大きさと形状について理解する。  3. 地圏の環境：人間の生活の基盤である地圏の特性について理解する（第3～6回）  ・地球の構造と活動の仕組み、地球の活動と地形の成り立ち。  ・人間活動との関わり：災害、資源・エネルギー問題。  4. 気圏の環境：地球を覆っている気圏の特性について理解する（第7～10回）  ・気圏の階層構造と大気循環、テレコミュニケーション、気候変動。  ・人間活動との関わり：大気汚染、酸性雨、地球温暖化。  5. 水圏の環境：地球の自然環境を特徴づけている水圏の特性について理解する（第11～14回）  ・水の物理的・化学的特性、地球上の水の存在量と循環速度。  ・人間活動との関わり：資源としての水、パーチャルウォーター、ウォーターフットプリント。  6. まとめ（第15回）  ・自然地理学から見た地域社会とグローバル社会。  ・環境リテラシー、環境倫理、環境正義。</p>						
授業に関連するキーワード	自然環境	環境問題		環境			
	環境倫理	環境正義					
成績評価の方法	小テスト：単元ごとに実施（4×15=60%）、期末試験（40%）						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
教科書・参考書等に関する記述欄	授業中に適宜紹介する。						
自由記述欄							

科目コード	5140080			単位	1	時間数	15
授業科目名	秋田の歴史A - 城下町を歩く -			開講学期等	前期前半	時間割	金7・8
授業科目名英字	Regional History of Akita in Edo Period						
備考	原則として学籍番号が奇数の者に限ります。偶数の人はBを受講してください。同一内容です。			授業の形式	講義・実習・学生	必修・選択	選択
				受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目				履修する際に前提とする授業科目			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
渡辺英夫	教育文化学部	教文3-336	2667				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	月～金 16時以降		【場所】	研究室		
授業の目的				授業の到達目標			
土地に刻まれた歴史を読み取る。				城下町久保田(秋田)でのフィールドワークに基づき、他の近世都市・城下町の成り立ちについても考察できるように、その能力を養成する。			
カリキュラム上の位置付け	日本近世史を専門的に研究していくための導入ではない。日本の歴史に関心を持つ一般の学生を対象にして、いま目の前に現存している街の姿から、その都市の歴史を考察していく能力を養い、地域の歴史により一層の関心を深めて貰いたい。						
授業の概要と進行予定及び進め方	<p>【授業の概要】 秋田市は江戸時代の初め常陸から移った佐竹氏によって造られた計画都市で、そこには秋田に限らない江戸時代共通の基本計画があります。この点を講義しつつ実際に街を歩いて見て回ります。危険防止のため原則として学籍番号奇数の者に人数を制限します。</p> <p>【進行予定と進め方】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>4月13日 ガイダンス 近世都市を考えることの意味</li> <li>4月20日 近世城下町の必然性 兵農分離制</li> <li>4月27日 山城から平山城へ</li> <li>5月11日 都市と水運</li> <li>5月18日 都市と街道 レポート提出No.1</li> <li>5月25日 街歩き実習フィールドワーク 14:30～17:30(2講義時間相当)</li> <li>6月1日 近代都市の前提 レポート提出No.2</li> </ol>						
授業に関連するキーワード	城下町	近世都市		地域の歴史			
	歴史の視点	フィールドワーク					
成績評価の方法	フィールドワークへの出席が絶対の前提条件です。その上で、学習態度・意欲(10%)、フィールドワーク(40%)、レポート(25%)、出席状況(25%)の割合で判定します。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
	教科書	『塩谷順耳他』		秋田県の歴史	山川出版社	2001年	
教科書・参考書等に関する記述欄							
自由記述欄	原則として学籍番号が奇数の者に限ります。偶数の人はBを受講してください。同一内容です。						

科目コード	5140081			単位	1	時間数	15
授業科目名	秋田の歴史B - 城下町を歩く -			開講学期等	前期後半	時間割	金7・8
授業科目名英字	Regional History of Akita in Edo Period						
備考	原則として学籍番号が偶数の者に限ります。奇数の人はAを受講してください。同一内容です。			授業の形式	講義・実習・学生	必修・選択	選択
				受講対象学生	全学部 1～4年		
内容的に密接に関係する授業科目				履修する際に前提とする授業科目			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
渡辺英夫	教育文化学部	教文3-336	2667				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	月～金 16時以降		【場所】	研究室		
授業の目的				授業の到達目標			
土地に刻まれた歴史を読み取る。				城下町久保田(秋田)でのフィールドワークに基づき、他の近世都市・城下町の成り立ちについても考察できるように、その能力を養成する。			
カリキュラム上の位置付け	日本近世史を専門的に研究していくための導入ではない。日本の歴史に関心を持つ一般の学生を対象にして、いま目の前に現存している街の姿から、その都市の歴史を考察していく能力を養い、地域の歴史により一層の関心を深めて貰いたい。						
授業の概要と進行予定及び進め方	<p>【授業の概要】 秋田市は江戸時代の初め常陸から移った佐竹氏によって造られた計画都市で、そこには秋田に限らない江戸時代共通の基本計画があります。この点を講義しつつ実際に街を歩いて見て回ります。危険防止のため原則として学籍番号偶数の者に人数を制限します。</p> <p>【進行予定と進め方】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>6月15日 ガイダンス 近世都市を考えることの意味</li> <li>6月22日 近世城下町の必然性 兵農分離制</li> <li>6月29日 山城から平山城へ 7月6日 &lt;休講&gt;</li> <li>7月13日 都市と水運</li> <li>7月20日 都市と街道 レポート提出No.1</li> <li>7月27日 街歩き実習フィールドワーク 14:30～17:30(2講義時間相当)</li> <li>8月3日 近代都市の前提 レポート提出No.2</li> </ol>						
授業に関連するキーワード	城下町	近世都市		地域の歴史			
	歴史の視点	フィールドワーク					
成績評価の方法	フィールドワークへの出席が絶対の前提条件です。その上で、学習態度・意欲(10%)、フィールドワーク(40%)、レポート(25%)、出席状況(25%)の割合で判定します。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
	教科書	『秋田県の歴史』		塩谷順耳他	山川出版社	2001年	
教科書・参考書等に関する記述欄							
自由記述欄	原則として学籍番号が偶数の者に限ります。奇数の人はAを受講してください。同一内容です。						

科目コード	5020233		単位	1	時間数	15	
授業科目名	秋田の自然と文化 A - 秋田の自然・資源・社会・文		開講学期等	前期後半	時間割	木7・8	
授業科目名英字	Nature and Culture in Akita IVA:Nature, Mineral Resources, Society and Culture in Akita						
備考	授業の形式		講義	必修・選択	選択		
	受講対象学生		全学部 1～4年				
内容的に密接に関係する授業科目	履修する際に前提とする授業科目						
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
今井 亮	地球資源	工資G309	889-2370	石山 大三	環境資源センター	工資セ218	889-2447
内田 隆	地球資源	工資B304	889-2652	井上 正鉄	人間環境	教文4-412	889-2588
石沢 真貴	政策科学	教文3-331	889-2616	妹尾 春樹	解剖学	医	884-6056
清水 徹男	精神科学	医	884-6119				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	木曜, 16:00-17:00		【場所】	工資G309・889-2370		
授業の目的				授業の到達目標			
秋田大学で学ぶ大学生として、秋田の自然社会、文化等の背景と環境を知り、秋田の特色を学び、爾後の専門教育との位置づけと係わり、地域と連携について考えることを目的とする。				1) 限りある地下資源の基礎的知識を学び、世界有数の秋田県の黒鉱鉱床資源を認識し、資源の生成機構を理解できる。 2) 世界自然遺産地域に指定された白神山地及び秋田県内の主な山岳の生態系を理解し、人間との共存の道を探ることができる。 3) 秋田の地域社会の特徴を種々の統計資料から読み取ることができる。 4) シロクマと秋田に棲むクマとの比較し、生態学からの問題点を考えることができる。 5) 飲酒と文化、健康、法律との係わりについて学び、危険な飲酒習慣について認識を深めることができる。			
カリキュラム上の位置付け	人間生活に深く関連する事柄の中で、秋田の資源や文化に密接に係わる問題を取り上げ、3学部の教員がそれぞれの専門分野を生かした講義を行う(本年度の担当責任者は今井亮)。						
授業の概要と進行予定及び進め方	【授業の概要】 1) 世界有数の秋田県の黒鉱鉱床資源、資源の生成機構についての講義と鉱業博物館の展示物(鉱物、鉱石等)を見学。 2) エネルギー資源の賦存状況、秋田県に分布する石油・天然ガス資源について紹介し、資源問題を考える。 3) 世界自然遺産地域に指定された白神山地及び秋田県内の主な山岳の生態系、人間との共存についての講義。 4) 秋田の地域社会の特徴を種々の統計資料から明らかにする。 5) シロクマと秋田に棲むクマとの比較、生態学からの問題点についての講義。 6) 飲酒と文化、健康、法律との係わり、危険な飲酒習慣についての講義。						
	【進行予定と進め方】 第1回(今井亮): 秋田県は日本有数の地下資源の宝庫として知られている。県周辺の地下資源を概説し、秋田県北東部の北鹿地域に分布する世界有数の黒鉱鉱床の地質と火山活動、鉱床探査技術について紹介し、資源問題を考える。 第2回(石山・今井): 地学や地質の自然物を対象とする学習は、実際に野外における観察や実物に触れることが大切である。資源に関する講義の理解度をより高めるために、本学が世界に誇る鉱業博物館の展示物(鉱物、鉱石等)を見学・観察する(学生ボランティアも参加)。< 鉱業博物館玄関に集合 > 第3回(内田): 限りある地下資源としてのエネルギー資源の賦存状況を概説し、その基礎的知識を学習する。秋田県に分布する石油・天然ガス資源について紹介し、資源問題を考える。 第4回(井上): 世界遺産地域に指定された白神山地を紹介し、白神山地の保護・管理の在り方を探る。 第5回(井上): 秋田県内には十和田湖・八幡平国立公園をはじめとする多くの自然公園や世界自然遺産地域に指定された白神山地がある。これらはブナ自然林に広く覆われて多様な生物を育んでいる。秋田が誇る豊かな生態系を紹介して、人間との共存の道を探る。 第6回(石沢): 秋田の地域社会の特徴を種々の統計資料から明らかにする。 第7回(妹尾): 生態学から見た、シロクマと秋田に棲むクマとの比較。 第8回(清水): 「飲酒による光と影」秋田県は日本有数の米どころ酒どころであると共に、県民1人当たりのアルコール消費量においても全国のトップクラスにある。この講義では飲酒と文化、健康、法律との係わりについて解説すると共に、危険な飲酒習慣について学生諸君の認識を深めることを目的とする。						
授業に関連するキーワード	秋田の地質とエネルギー資源	黒鉱鉱床	世界遺産と白神山地				
	秋田の自然	秋田の地域社会	自殺				
	酒の功罪	鉱業博物館					
成績評価の方法	授業内容に関するレポート(50%)、簡単な小テスト(50%)で評価する。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】	【著者】	【出版社】	【出版年】		
教科書・参考書等に関する記述欄	特に使用しない						
自由記述欄							

科目コード	5140160	単位	1	時間数	15		
授業科目名	防災学基礎 - 防災のための地球科学入門 -	開講学期等	前期前半	時間割	水3・4		
授業科目名英字	Foundation fo Disaster Prevention Engineering -Introduction to Earth Sciences-						
備考	授業の形式		講義	必修・選択	選択		
	受講対象学生		全学部1～4年				
内容的に密接に関係する授業科目	防災学基礎 - 地域防災学入門 -		履修する際に前提とする授業科目	特になし			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
鎌滝 孝信	地域創生センター	VBL 2階	2892				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	水曜日 15:00～18:00		【場所】	VBL 2階		
授業の目的				授業の到達目標			
地球科学という学問は、地球上で生じている自然現象および自然災害の大部分がその範疇に含まれる現象であるため、我々が地球上で生活して行く上で基礎知識として学んでおくことが望ましい分野である。本授業では、防災学を学ぶ上での基礎知識として、自然災害の発生メカニズムおよび防災との関連について学ぶ。				1) 地球上で生じている自然現象および自然災害について系統立てて説明できる。 2) 地震発生予測や地震被害想定の手法をその流れを示して説明できる。			
カリキュラム上の位置付け	防災学を学ぶ上での基礎知識として地球上で発生している自然現象を理解し、防災意識を身につけてもらいたい。						
授業の概要と進行予定及び進め方	【授業の概要】 防災を学ぶ上で必要となる地球科学の基礎や災害の歴史について、スライドやプリントを使って解説する。授業は、高校地学を未履修であることを前提にわかりやすく行う。						
	【進行予定と進め方】 1. ガイダンス・イントロダクション 2. 防災に関連した地球科学の基礎知識(1) 3. 防災に関連した地球科学の基礎知識(2) 4. 防災に関連した地球科学の基礎知識(3) 5. 地震・津波災害について 6. 地盤災害について 7. 国や自治体の地震被害想定について 8. まとめ						
授業に関連するキーワード	地球科学	地震・津波災害		地盤災害			
	防災教育	防災意識					
成績評価の方法	小テスト(20%)、レポート(30%)、試験(50%)の結果をもって判定する。 総合60%をもって合格とする。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
教科書・参考書等に関する記述欄	教科書は指定しない。授業内容に合わせて適宜資料を配付する。 参考書は授業中に適宜紹介する。						
自由記述欄							

科目コード	5140170	単位	1	時間数	15時間		
授業科目名	防災学基礎 - 地域防災学入門 -	開講学期等	前期後半	時間割	水3・4		
授業科目名英字	Foundation of Disaster Prevention Engineering Introduction to Disaster Reduction						
備考	授業の形式		講義	必修・選択	選択		
	受講対象学生		全学部1～4年				
内容的に密接に係る授業科目	防災学基礎 - 防災のための地球科学入門 -		履修する際に前提とする授業科目	特になし			
【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】	【担当教員名】	【所属】	【学内室番号】	【電話番号】
水田敏彦	地域創生センター	2891	018-889-2891				
オフィスアワー	【曜日及び時間】	水曜日 16:00 - 17:00 (予約すれば)		【場所】	VBL 2階		
授業の目的				授業の到達目標			
地震、豪雨などの事例を挙げ、メカニズムや特徴を平易に解説した上で、それらが発生した場合の現状および対策方法を考え、実践的な防災知識を学ぶ。また、身の回りのリスクや危機管理に関する基本的な知識を学ぶ。				1) 自然災害の性質と特徴が理解できる。 2) 災害から都市を守るための諸方策や防災システムの基礎知識を修得し、説明できる。 3) 避難、安否確認、各種情報の入手など、災害から身を守る基本的な方法を理解し、説明できる。			
カリキュラム上の位置付け	学生との討議を通じて、人類が未解決の問題について考える。						
授業の概要と進行予定及び進め方	<p>【授業の概要】 わが国における地震災害を中心とした防災対策の経緯と現実・課題を整理し、これらの危機について具体的事例を基にどのように対応し、また、どのような問題点があったかを解説する。</p> <p>【進行予定と進め方】 1. 震災と防災について考える 2. 耐震設計の理念と防災・危機管理の実情 3. 大地震に直面、その時どうする？どうなる？ 4. 災害に強い街づくり 5. 防災マップの作成 6. リスクと危機管理(1) - 成功した例、失敗した例 - 7. リスクと危機管理(2) - 企業のリスクと対策 - 8. まとめ</p>						
授業に関連するキーワード	地域防災	防災技術		地震災害			
	豪雨災害	災害予測		危機管理			
	耐震設計						
成績評価の方法	演習及びレポート80%、学習態度20%により評価する。 総点で60点以上を合格とする。 全体の1/3(3回)以上欠席した場合は単位を認めない。						
教科書・参考書等	【教/参の別】	【書籍名】		【著者】	【出版社】	【出版年】	
	参考書	『地震防災と安全都市』		鹿島都市防災研究会	鹿島出版会	1996年	
	参考書	『地域防災計画の実務』		京都大学防災研究所	鹿島出版会	1997年	
	参考書	『失敗学のすすめ』		畑村洋太郎	講談社	2000年	
教科書・参考書等に関する記述欄							
自由記述欄							

授業科目名	応用言語学	科目コード	6040750
授業科目名英字	Applied Linguistics I		
開講学期等	前期	単位	
時間割	前期 水曜日 1・2時限	授業の形式	演習
履修する際に前提とする授業科目	なし	内容的に密接に関係する授業科目	後期の「第二言語習得論I」と合わせて履修するようにしてください。英語科教育学概論II、英語科教育学演習、応用言語学II、第二言語習得論I、II、教育実習事前事後指導I、II、外国語活動概論、英語科教育学概論I
教員免許取得	中・高(英語)選択科目	保育士(学部)/臨床心理士(大学院)資格取得	
担当教員名, 所属, 学内室番号・電話番号			
佐々木雅子 教科教育学 3-249・889-2638			
オフィスアワー			
3-249 水曜日10:30-12:00			
授業の目的と到達目標			
1) To understand what "communicative language ability" is (knowledge) 2) To understand how important interaction is in language learning (knowledge) 3) To understand "communication-oriented approach" (knowledge) 4) To do interactive language activities (skill) 5) To reflect on your own language learning (skill, interest)			
授業の概要と進行予定及び進め方			
第1回(4/11) Introduction 第2回(4/18) What is "communicative language ability"? 第3回(4/25) How important is interaction in language learning? Is "communication-oriented approach" effective? 第4, 5, 6, 7, 8回 (5/9, 5/16, 5/23, 5/30, 6/6) Part 1 1) Weekly Debriefing 2) Doing interactive language activities 3) Reflect on your own language learning 第9回(6/13) Mid-term Presentation 第10, 11, 12, 13回 (6/20, 6/27, 7/4, 7/11) Part 2 1) Weekly Debriefing 2) Doing interactive language activities 3) Reflect on your own language learning 第14回(7/18) Term-end Presentation 第15回(7/25) Conclusion			
教科書	Relevant materials to be used		
参考書等	「オーラル・コミュニケーションの理論と実践」幸野稔・佐々木雅子他著 三修社 Ingram, D.E., Kono, M., O'Neill, S., & Sasaki, M. (2008). Fostering Positive Cross-Cultural Attitudes through Language Teaching. Maleny, QLD, Australia: Post Pressed. 富田かおる・小栗裕子・河内千栄子編(2010)『英語教育学大系 第9巻 リスニングとスピーキングの理論と実践』大修館書店		
成績評価の方法	授業への取り組み(20%), 課題への取り組み(30%) プレゼンテーション(30%), レポート(20%) 欠席(未提出)が5回に達した時点で履修放棄とみなす。		
授業関連キーワード	communicative language ability, Interaction(Negotiation of meaning), communication-oriented approach, language learning, reflection		
備考	課外の時間帯ではあるが、毎週(曜日は調整中)19:00 to 20:00 カレッジプラザにて英語を用いたALT等との交流を行う。コースのPresentationに関わってくるので、予定を空けるよう努力して下さい。*TOEFL ITPを4月と7月に受けます(4,000円程度/回×2回=8,000円程度) *Make the most of this course to improve your English ability, *Think over what sort of language learning is effective.		